

飯能市ごみ処理施設整備事業

生活環境影響調査書 について

本日の説明内容(項目)

1. 事業計画の概要
2. 生活環境影響調査（環境アセスメント）とは？
3. 環境影響調査（環境アセスメント）の結果
4. 告示・縦覧、意見書の提出

飯能市ごみ処理施設整備事業

1. 事業計画の概要

現在までの経緯

○飯能市のごみ処理

飯能市のごみの処理は、飯能市クリーンセンターで焼却処理等を行っています。

- ★昭和57年1月に飯能市クリーンセンター竣工・稼働開始
- ★平成4年3月にカレット選別施設稼働開始
- ★平成12年3月に改修（ダイオキシン類対策）
- ★平成18年3月に缶選別圧縮施設稼働開始

⇒ 既に30年以上経過

⇒ 設備の老朽化、補修・改造費の増大



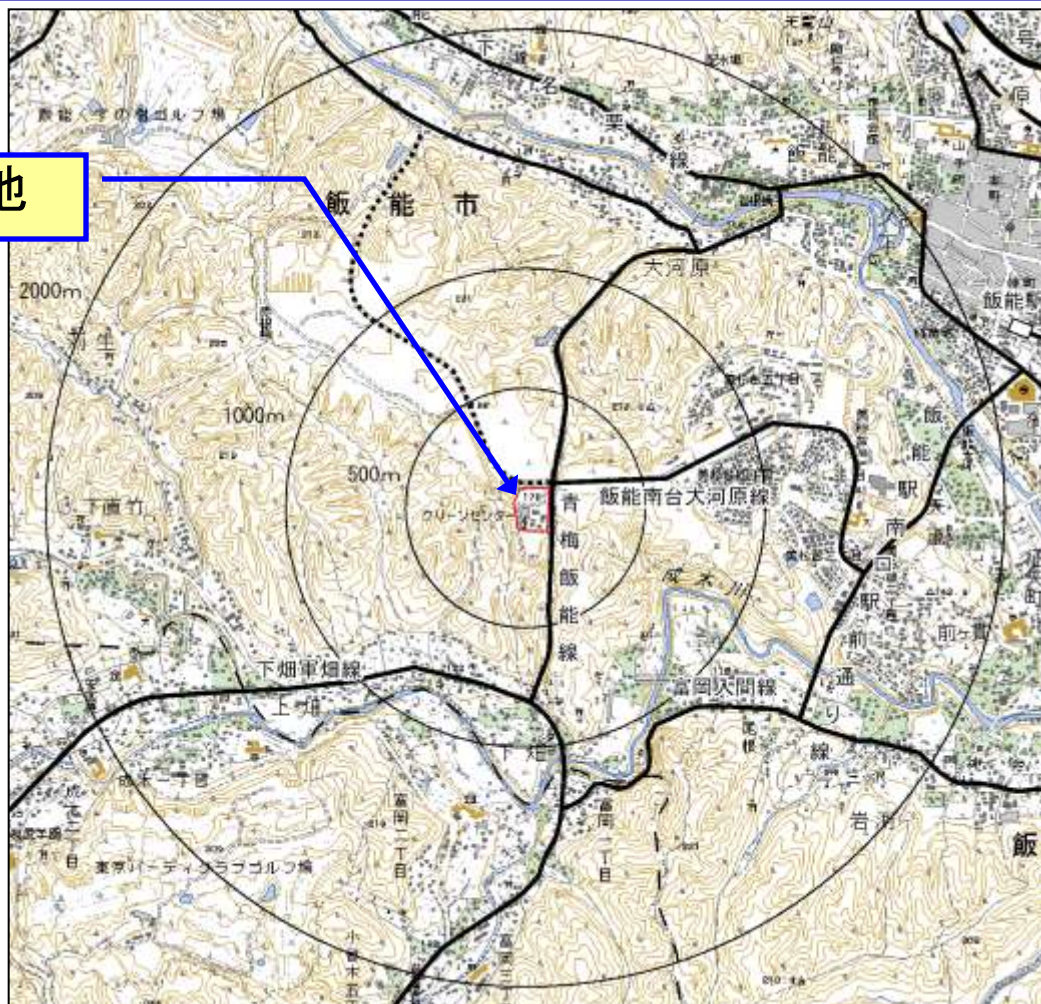
飯能市クリーンセンターの建替えが急務です。

飯能市クリーンセンターの整備方針

- ◆整備基本方針1：循環型社会の形成に資するため、積極的に資源の有効利用が図れ、最終処分量の低減が図れる施設とする
- ◆整備基本方針2：自然環境の保全・公害防止対策に万全の措置を講じた施設とする
- ◆整備基本方針3：ごみを安全・安定的に処理できる施設とする
- ◆整備基本方針4：地域住民との調和を図り住民から信頼される施設とする
- ◆整備基本方針5：財政支出の節減を図り、経済的に合理性のある施設とする

建設予定地の位置①

建設予定地



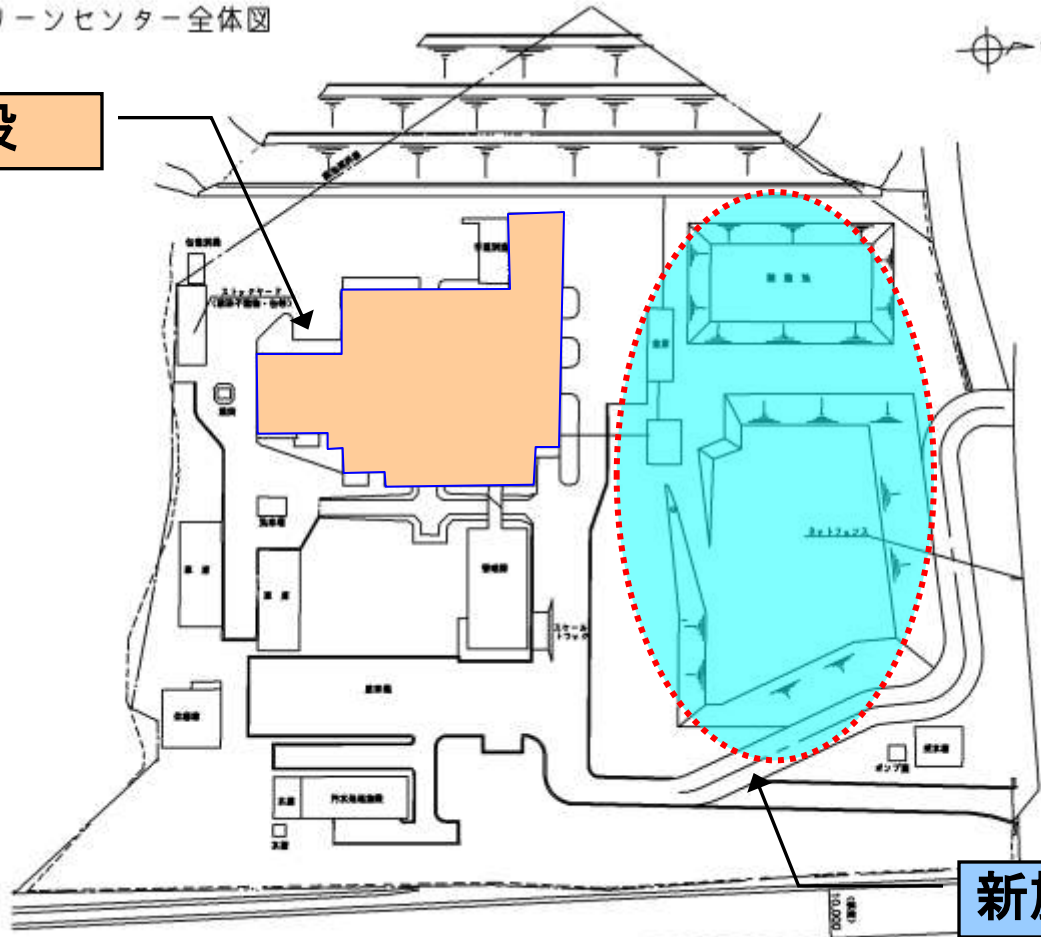
建設予定地の位置②



建設予定地の位置③

クリーンセンター全体図

現施設



新施設予定地

事業計画の概要

項目	計画概要
敷地面積	約2.8ha
整備施設種類	高効率ごみ発電施設・リサイクル施設
処理方式	全連続燃焼式ストーカ炉(焼却+セメント原料化)
処理能力	80 t /日 (40t /日×2炉)
煙突高さ	地上59m
管理基準	煙突排ガスは、自主規制値を設定 プラント排水は、河川放流は行わない 生活系排水は公共下水道へ放流
余熱利用	発電(発電効率12%以上)、場内プロセス利用

環境保全対策①

○排ガス対策

- 施設稼働時における煙突排出ガス中の大気汚染物質の常時観測
- 排ガス対策として、法規制等の規制基準に準拠するとともに、以下の自主規制値を設定。

項目	新施設	現施設	法規制
硫黄酸化物(ppm)	30	50	K値=17.5
ばいじん(g/Nm ³)	0.02	0.15	0.15
塩化水素(ppm)	25	123	123
窒素酸化物(ppm)	50	180	180
ダイオキシン類 (ng-TEQ/Nm ³)	0.1	0.5	5
一酸化炭素(ppm)	30(4h)	100	100
粉じん(g/Nm ³)	0.1	-	-

環境保全対策②

○騒音・振動対策

- 主要な騒音・振動発生機器は屋内へ設置するとともに防音、防振対策を実施します。

○排水対策

- 施設から排水される工場系（プラント）排水は、本施設で再利用を行い、公共用水域への放流は行いません。
- 生活系排水は、そのまま下水道に放流するものとし、公共用水域への放流は行いません。

○悪臭対策

- プラットホーム出入口は、エアカーテン、自動扉等を設け、プラットホーム内の臭気の漏洩を防止します。
- ごみピット内の臭気等の漏洩を防止するため、ごみピット内の空気を吸引し燃焼用空気として使用します。
- 点検等により、2炉停止時は活性炭吸着により悪臭の発生を防止します。

廃棄物運搬車両の搬入ルート



事業スケジュール(工程)

施設の供用開始は平成28年10月を予定しています。

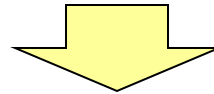
項目 \ 年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実施設計	■			
建設工事		■	■	■
稼働開始				■

飯能市ごみ処理施設整備事業

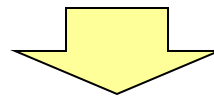
2. 生活環境影響調査 とは？

生活環境影響調査とは

廃棄物処理施設を設置する場合



事前に現況調査、予測及び評価、十分な環境保全対策を実施

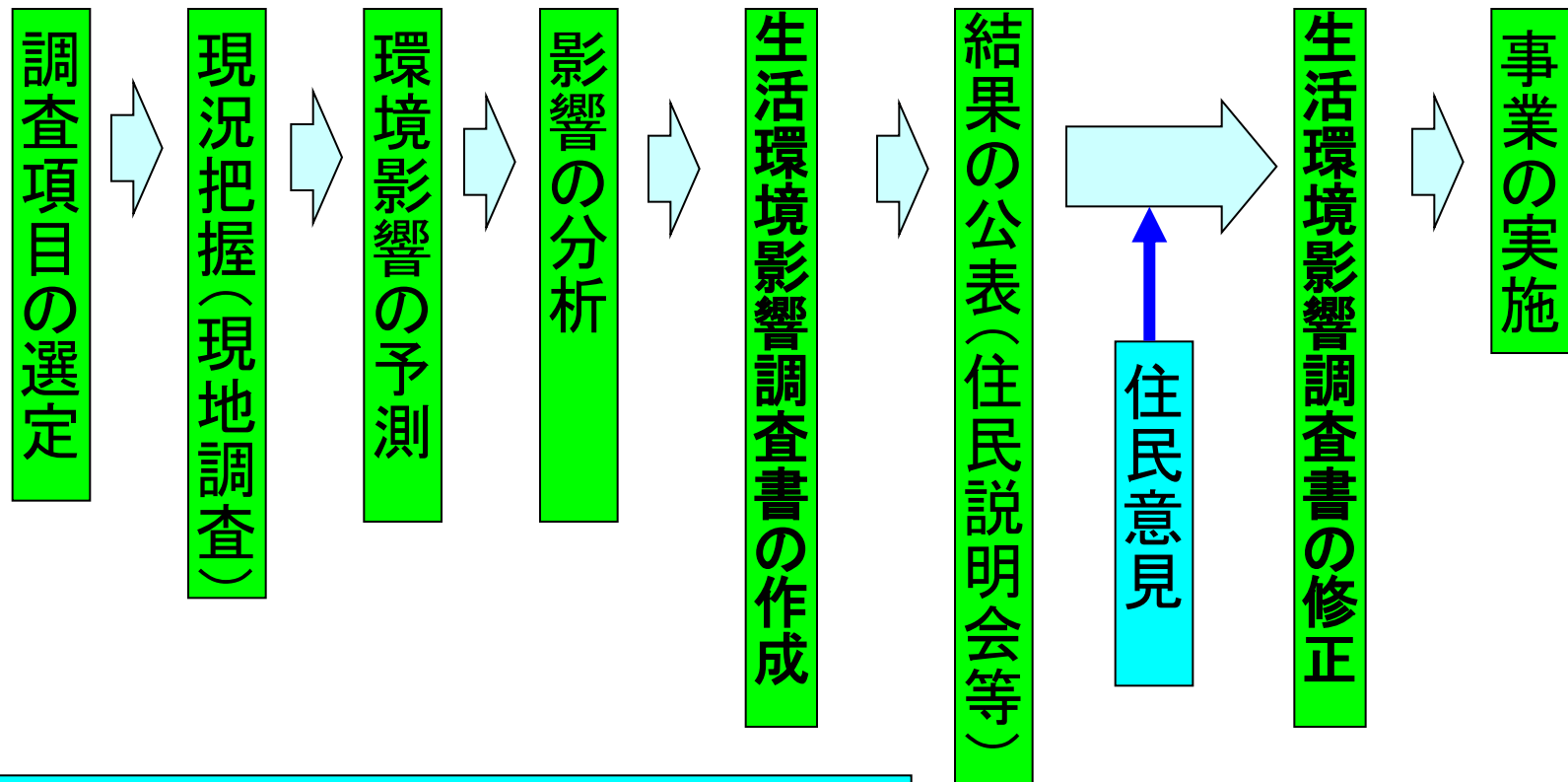


環境への影響を未然に防止し、良好な環境を確保

生活環境影響調査とは、「**廃棄物の処理及び清掃に関する法律**」(昭和45年、法律第137号)により**廃棄物処理施設の設置時の手続として規定**されたものです。地方公共団体が一般廃棄物処理施設を整備する際には、当該施設の設置が周辺地域の生活環境へ及ぼす影響について調査を実施し、その**調査結果を記載した書類を添えて県知事に届け出る**ことと定められています。

環境アセスメントの流れ

生活環境影響調査は、「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」(平成18年9月改訂、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部)に基づき行います。



飯能市が設置する一般廃棄物処理施設に係る生活環境影響調査結果の縦覧等の手続に関する条例 平成23年12月16日 条例第18号

飯能市ごみ処理施設整備事業

3. 生活環境影響調査 の結果

調査、予測・評価の項目

調査事項	生活環境影響要因 生活環境影響調査項目	新施設（焼却施設）				新リサイクル施設（破碎・選別施設）					
		煙突排ガスの排出	施設排水の排出	施設の稼働	施設からの悪臭の漏洩	廃棄物運搬車両の走行	施設排水の排出	施設の稼働	施設からの悪臭の漏洩	廃棄物運搬車両の走行	
大気環境	大気質	二酸化硫黄(SO ₂)	○								
		二酸化窒素(NO ₂)	○				○			○	
		浮遊粒子状物質(SPM)	○				○			○	
		塩化水素(HCl)	○								
		ダイオキシン類	○								
		粉じん							○		
騒音振動	騒音レベル			○		○		○		○	
		振動レベル			○		○		○		○
		悪臭	○			○			○		
水環境	水質	特定悪臭物質濃度又は臭気指数(臭気濃度)									
		生物化学的酸素要求量(BOD)又は化学的酸素要求量(COD)		△				△			
		浮遊物質(SS)		△				△			
	その他必要な項目(ダイオキシン類等)		△				△				

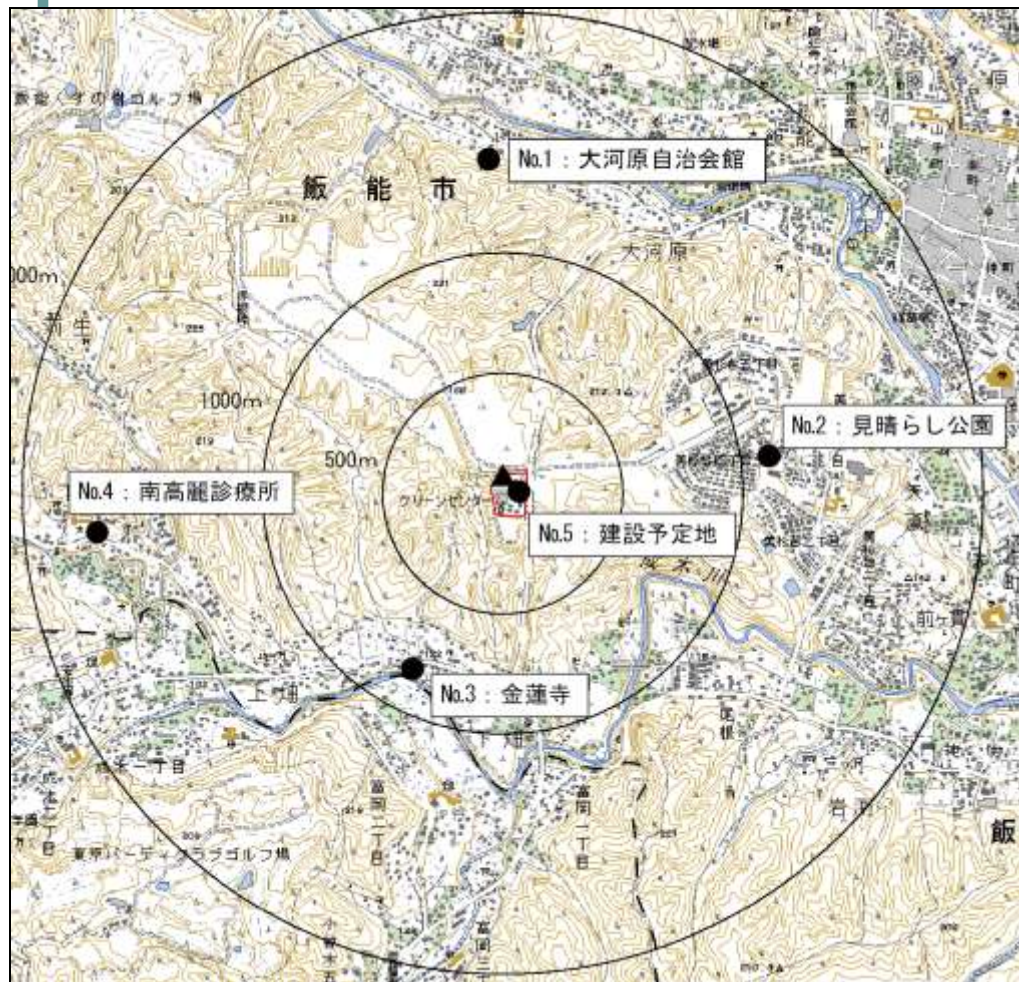
備考) ○：生活環境影響調査項目として選定した項目

△：事業特性（河川放流は行わない）から、環境影響はないため選定しない項目

調查項目

大氣質

調査地点等



調査項目

■大気質

二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ダイオキシン類、塩化水素、粉じん

■地上気象

風向、風速、日射量、放射収支量

調査期間

■大気質

春季：H23年5月22日～5月28日

夏季：H23年8月18日～8月24日

秋季：H23年10月13日～10月19日

冬季：H24年2月3日～2月9日

H24年3月7日～3月9日

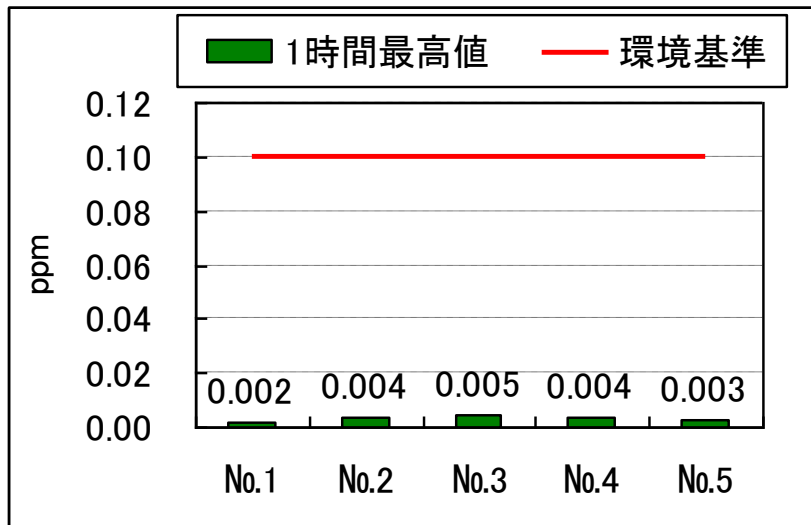
(粉じんのみ)

■地上気象

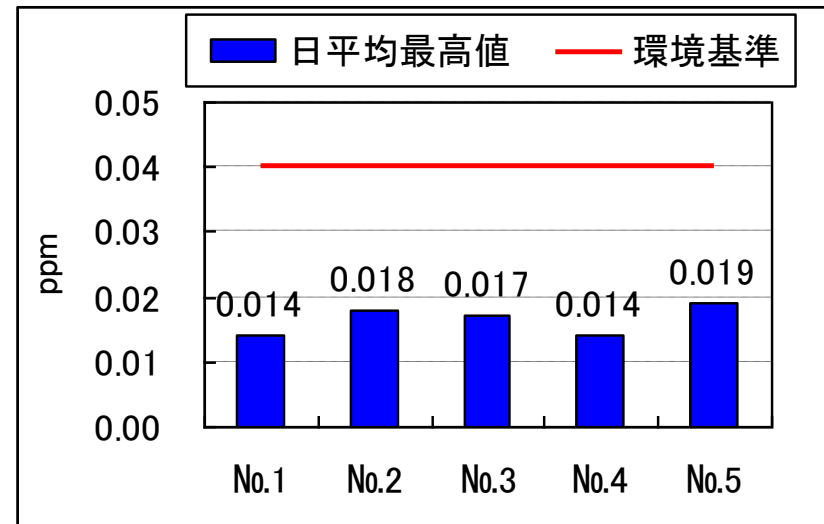
平成23年5月22日（1年間）

調査の結果(大気質①)

調査項目：二酸化硫黄



調査項目：二酸化窒素

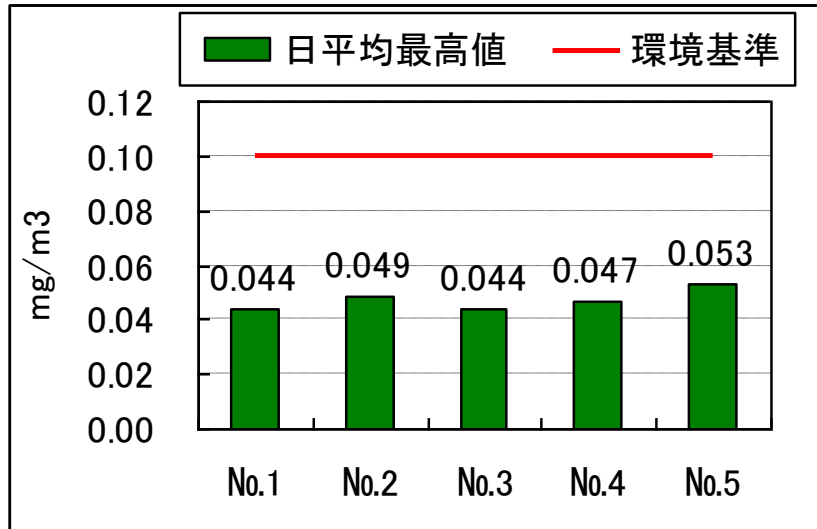


【環境基準】

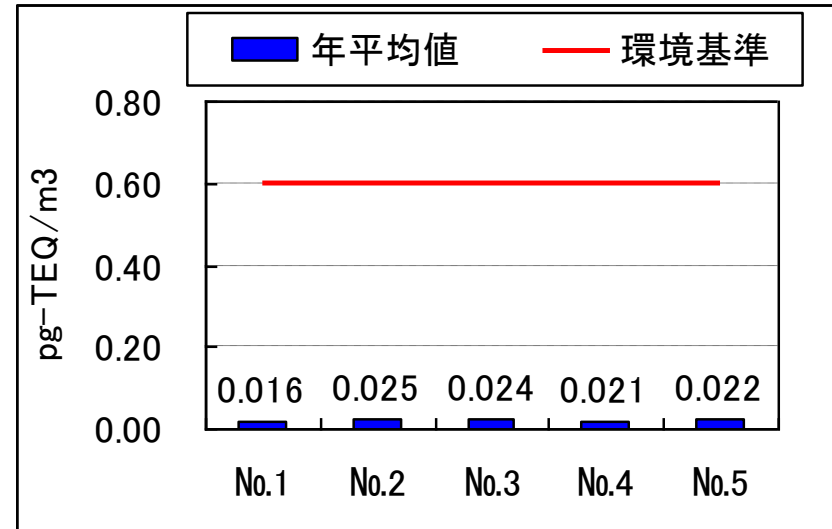
- 二酸化硫黄：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
- 二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

調査の結果(大気質②)

調査項目：浮遊粒子状物質



調査項目：ダイオキシン類

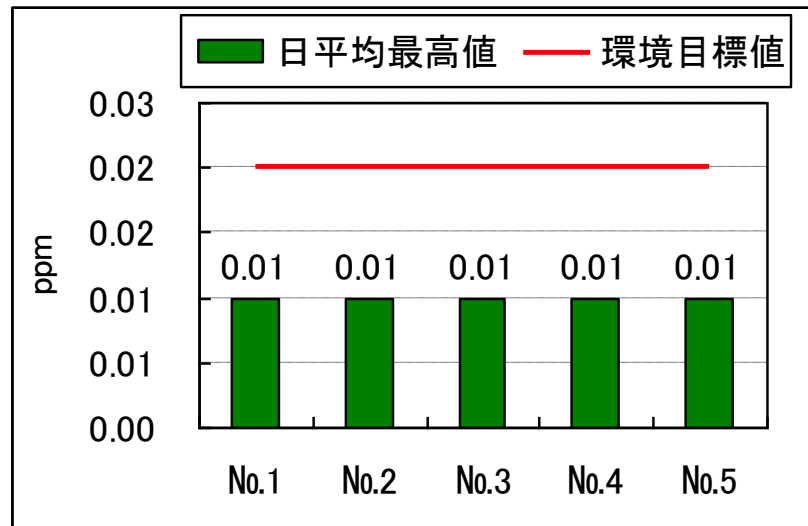


【環境基準】

- 浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
- ダイオキシン類：年間平均値0.6pg-TEQ/m³以下。

調査の結果(大気質③)

調査項目：塩化水素



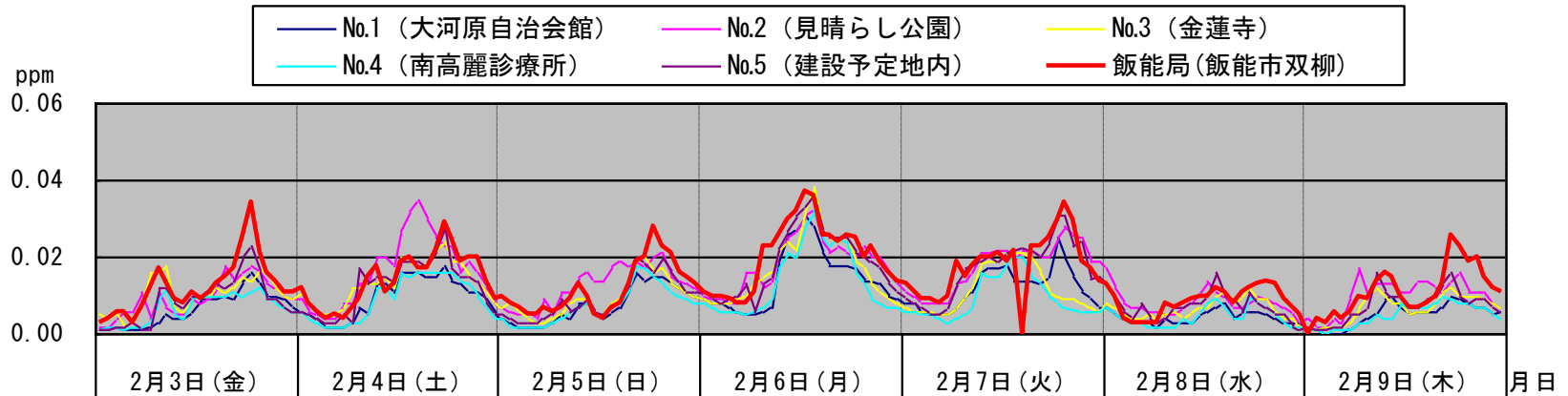
【環境目標値】

■塩化水素：目標環境濃度0.02ppm

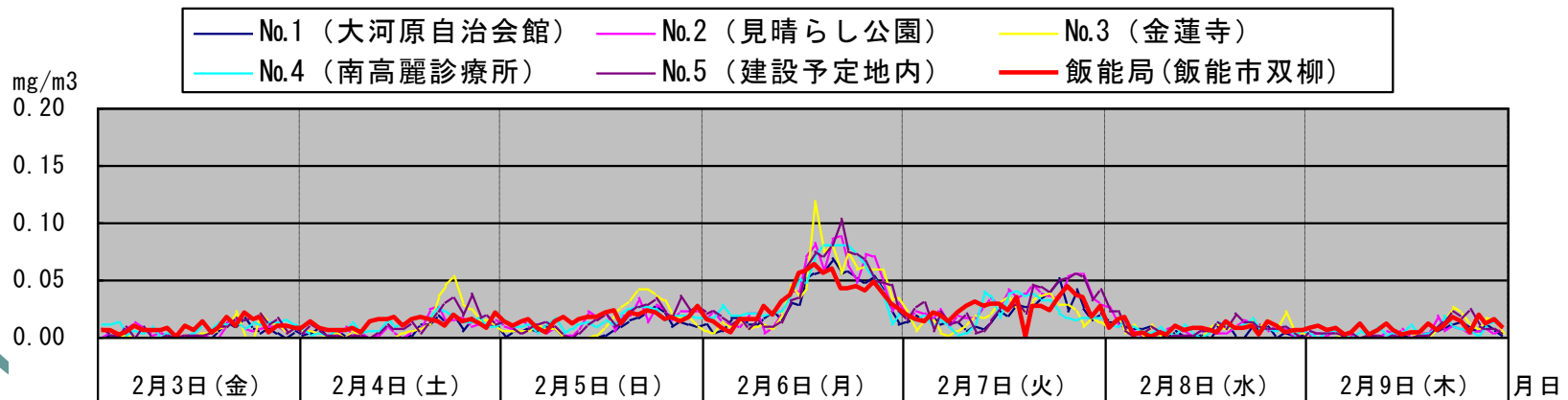
調査の結果(大気質④)

周辺の大気質測定局(飯能局)との比較例(冬季調査の結果比較)

二酸化窒素 (NO₂)

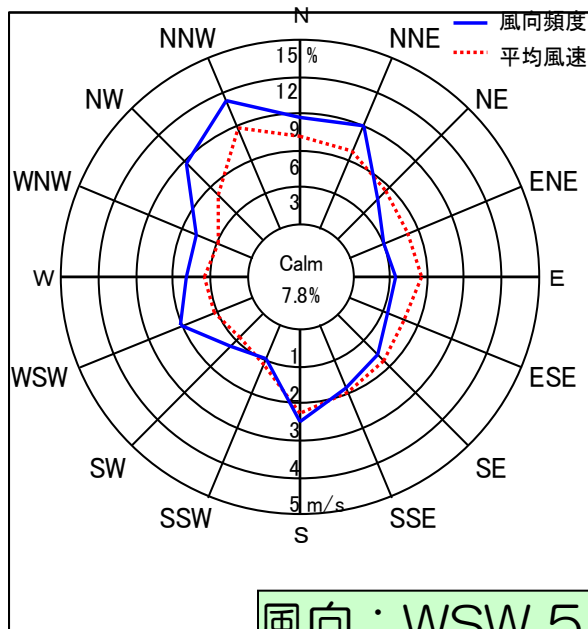


浮遊粒子状物質 (SPM)

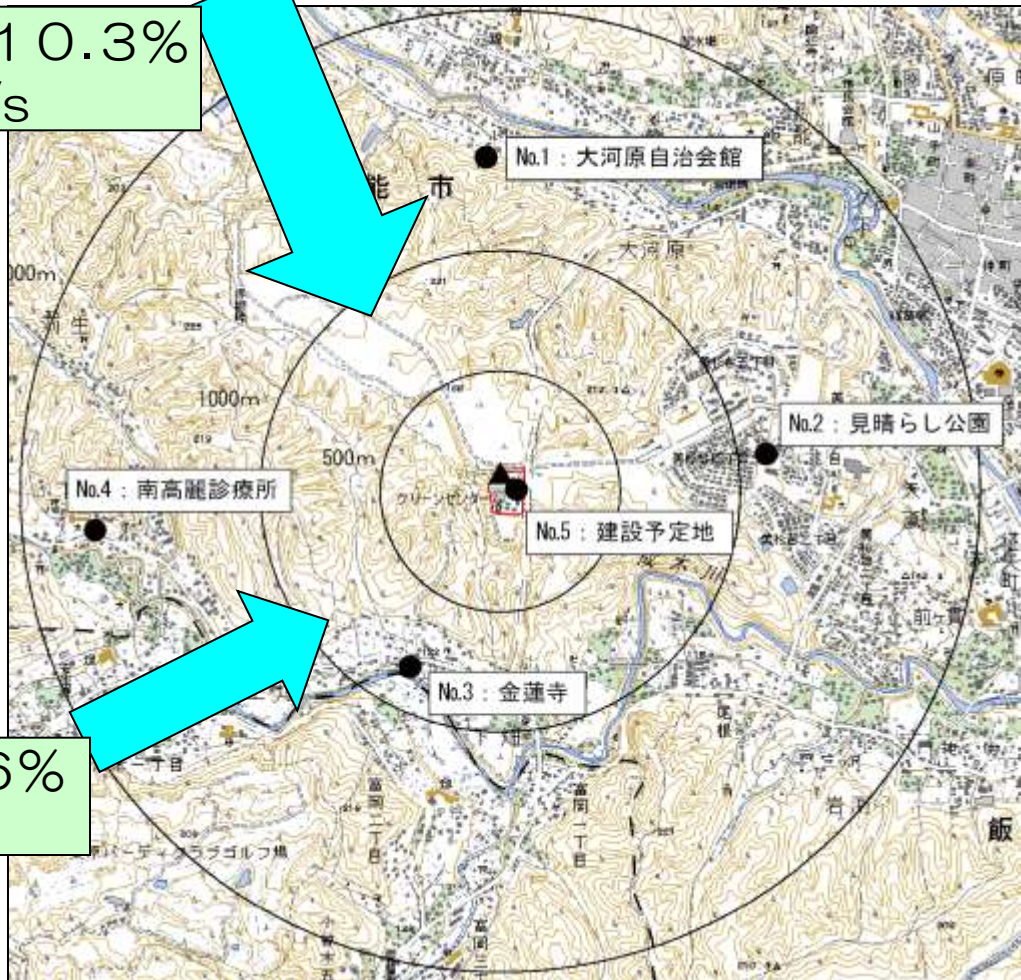


調査の結果(地上気象)

風向：NNW 10.3%
風速：2.9m/s



風向：WSW 5.6%
風速：1.1m/s



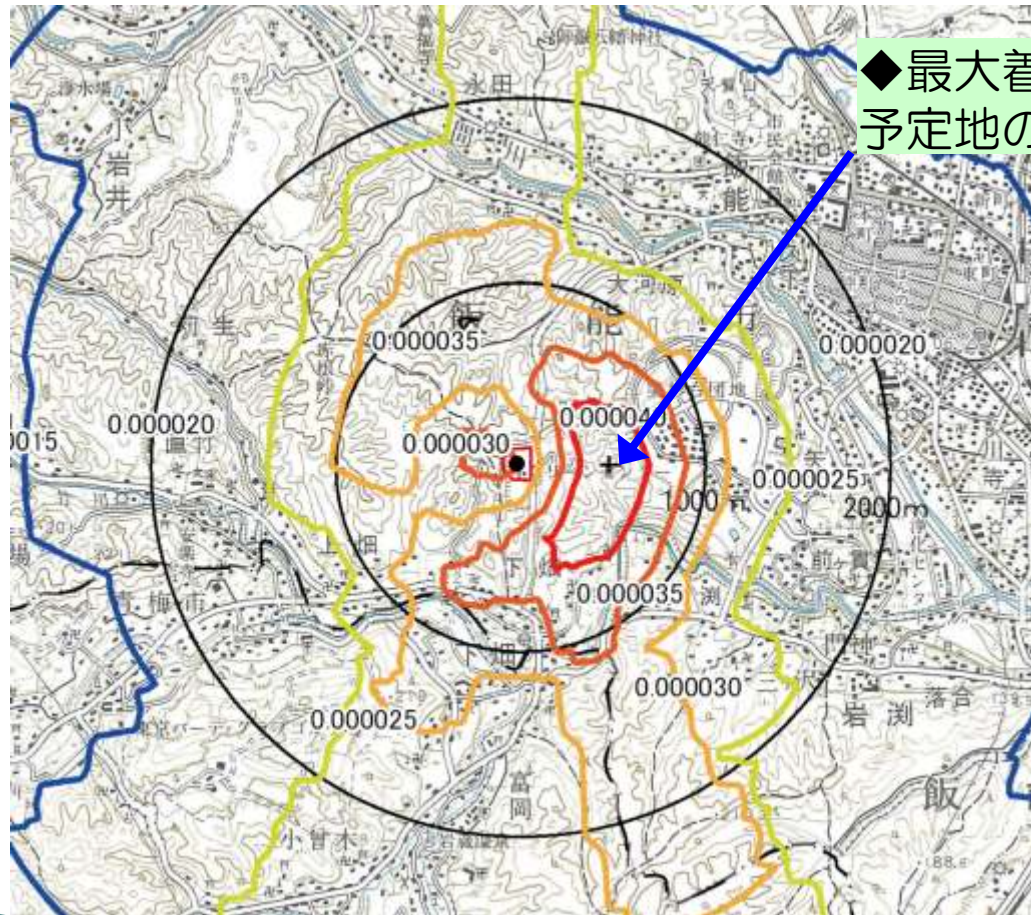
調査期間：平成23年5月～平成24年5月の1年間

調査の結果（大気質調査のまとめ）

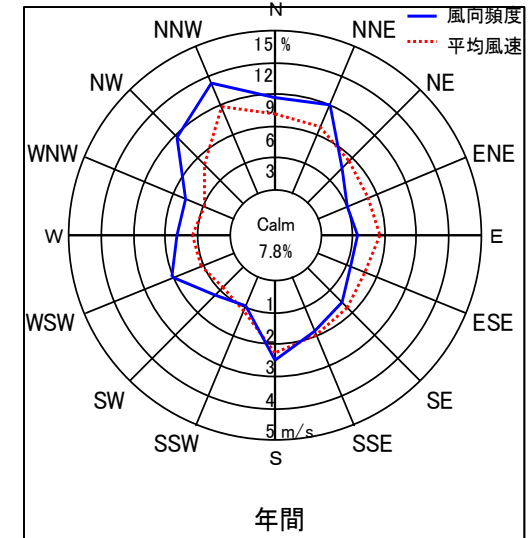
- ◆大気質濃度は、各調査地点、各調査項目ともに環境基準値を下回っていた。
- ◆大気質の変化は、周辺の測定局とほぼ同様であり、局地的な大気汚染の発生等は確認されなかった。
- ◆風向は、NNW（北北西）の風が最も多く、年平均風速は2.0m/sであり、典型的な関東地方北部の風の状況であった。

予測・評価の結果(大気質①)

焼却施設の稼働(周辺への拡散状況)

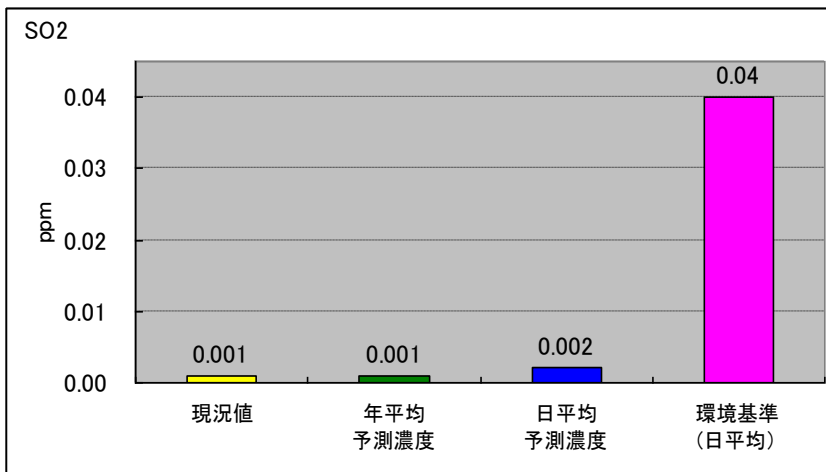


◆最大着地濃度出現地点は、建設予定地の東側約500m地点

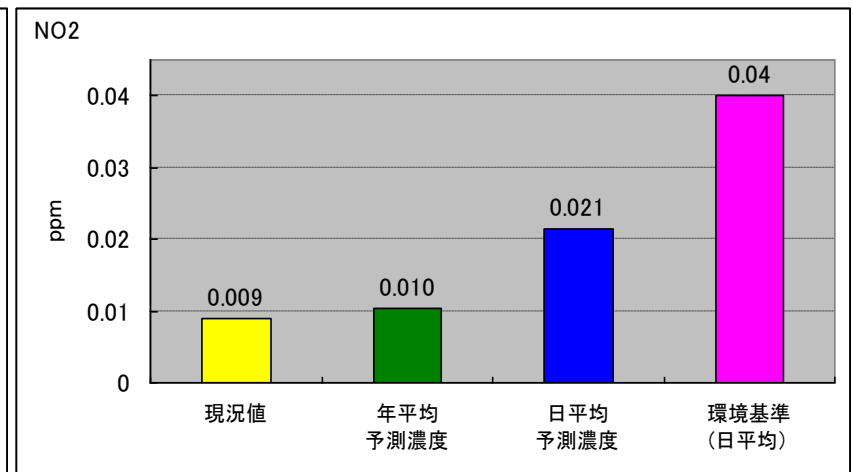


予測・評価の結果(大気質②)

施設の稼働（長期平均濃度予測）



予測項目：二酸化硫黄



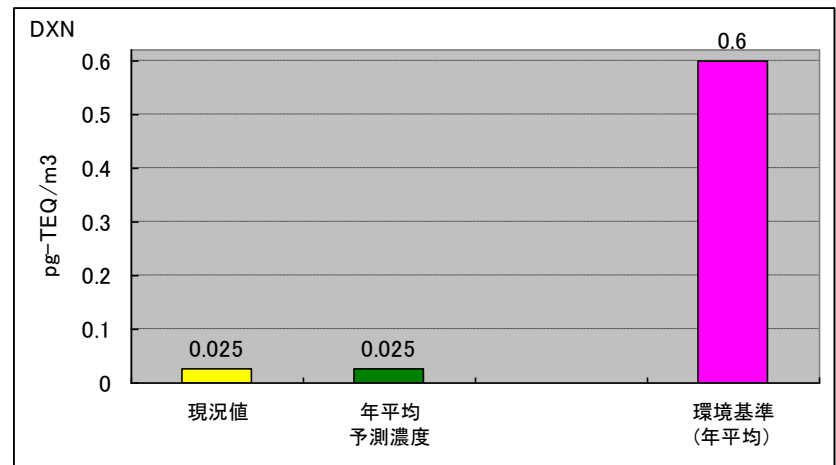
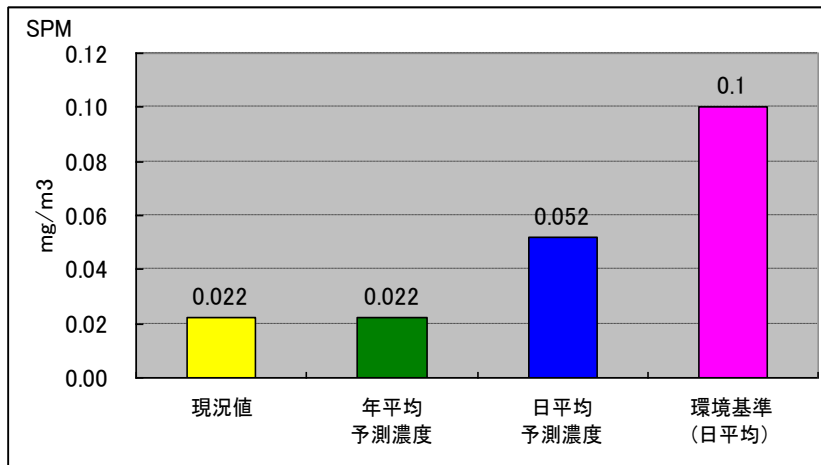
予測項目：二酸化窒素

【環境保全目標：環境基準】

- 二酸化硫黄：日平均値が0.04ppm以下であること。
- 二酸化窒素：日平均値が0.04ppm以下であること。

予測・評価の結果(大気質③)

施設の稼働(長期平均濃度予測)



予測項目：浮遊粒子状物質

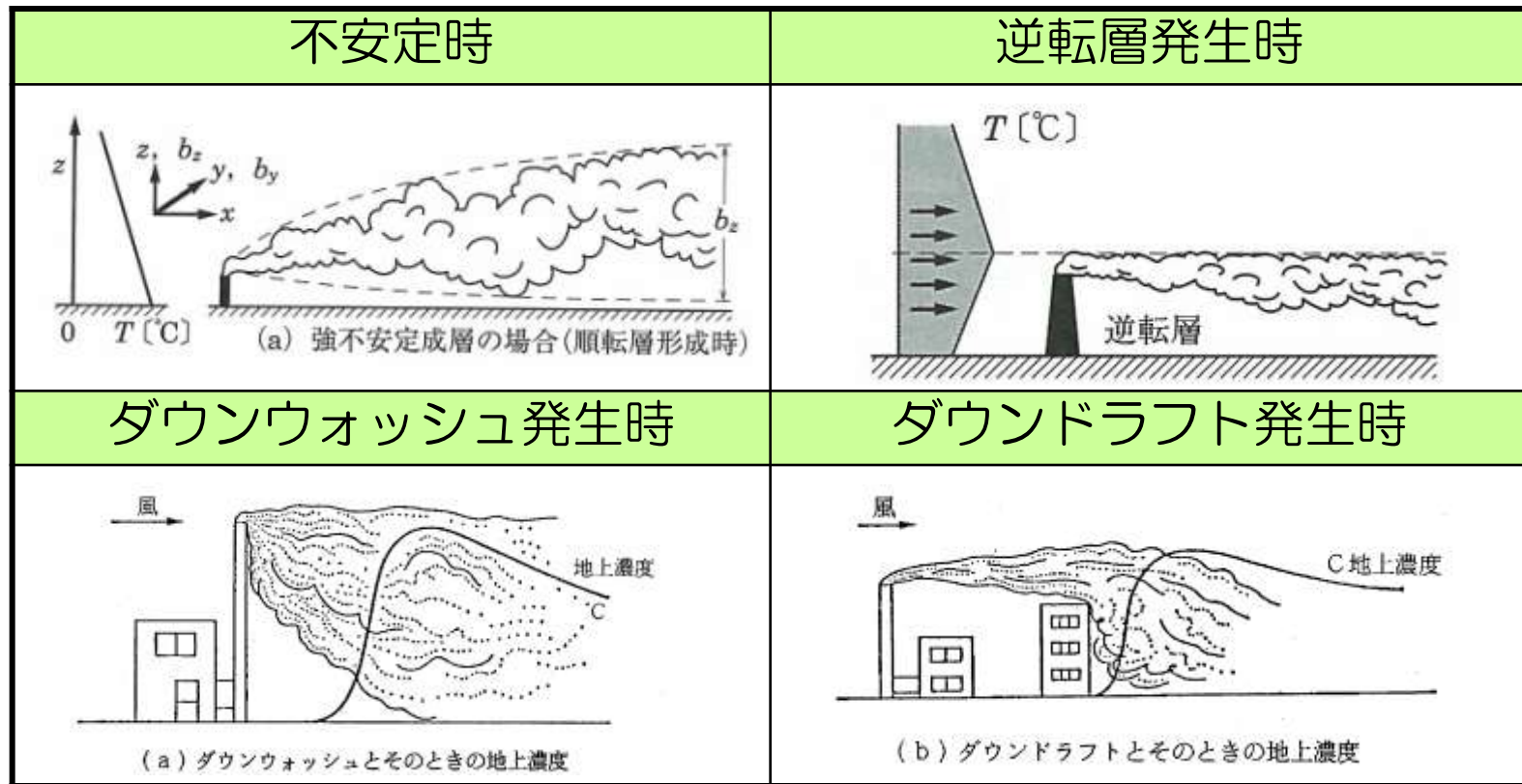
予測項目：ダイオキシン類

【環境保全目標：環境基準】

- 浮遊粒子状物質：日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。
- ダイオキシン類：年間平均値が $0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 以下であること。

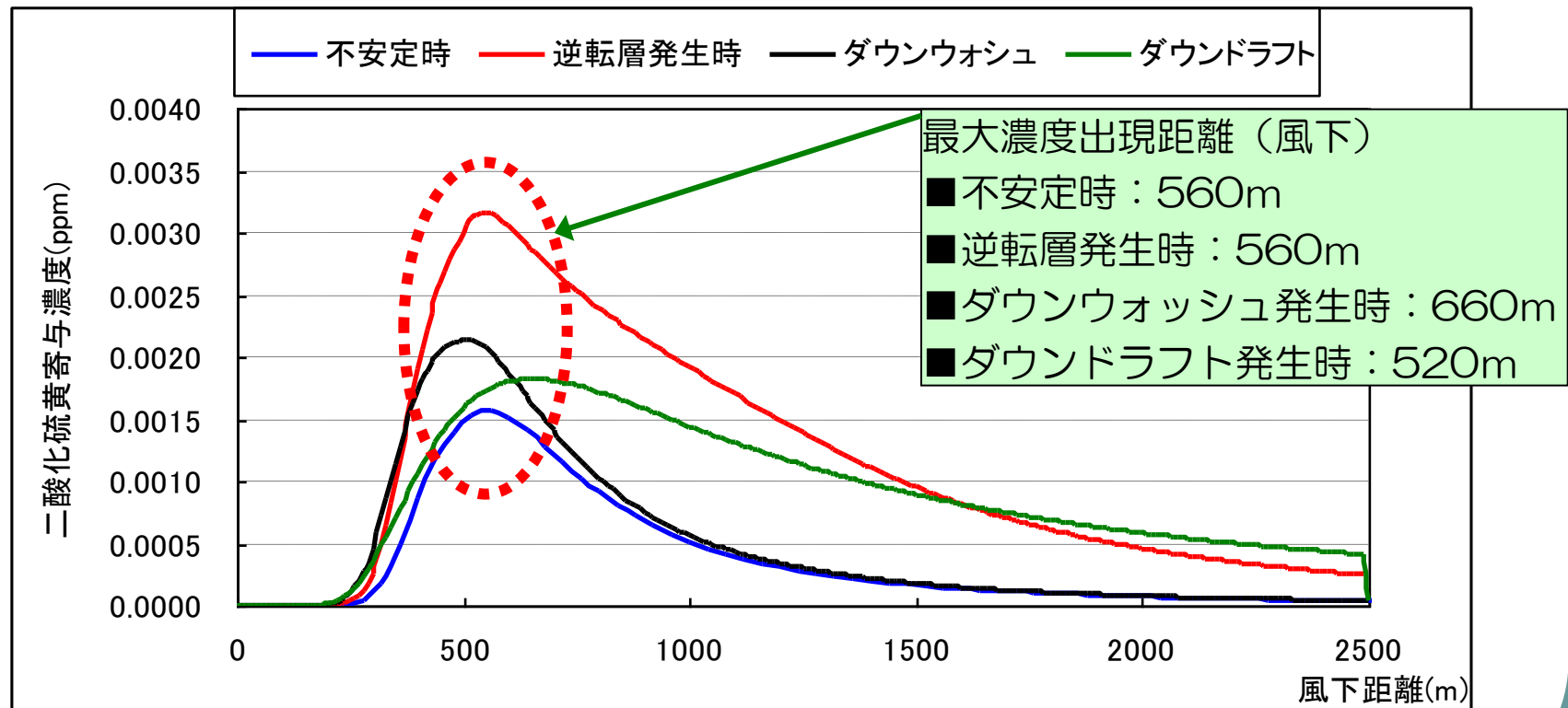
予測・評価の結果(大気質④)

施設の稼働 (短期濃度の予測ケース)



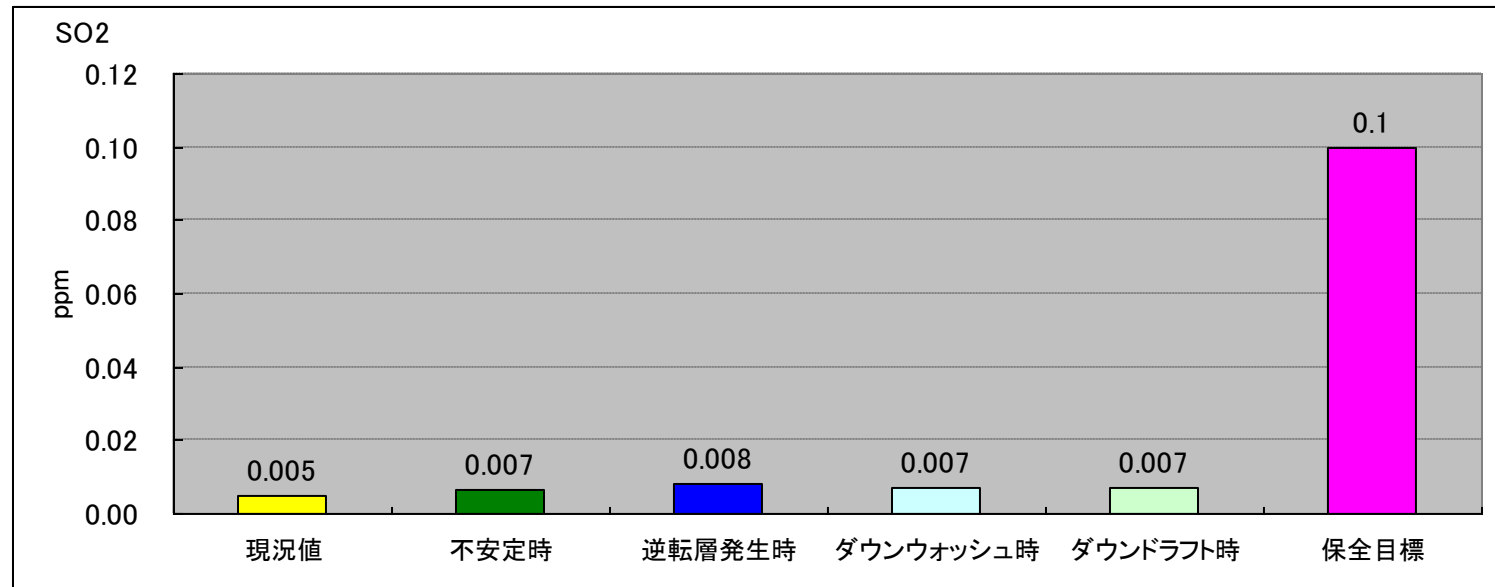
予測・評価の結果(大気質⑤)

施設の稼働(短期濃度予測:二酸化硫黄)



予測・評価の結果(大気質⑥)

施設の稼働(二酸化硫黄)

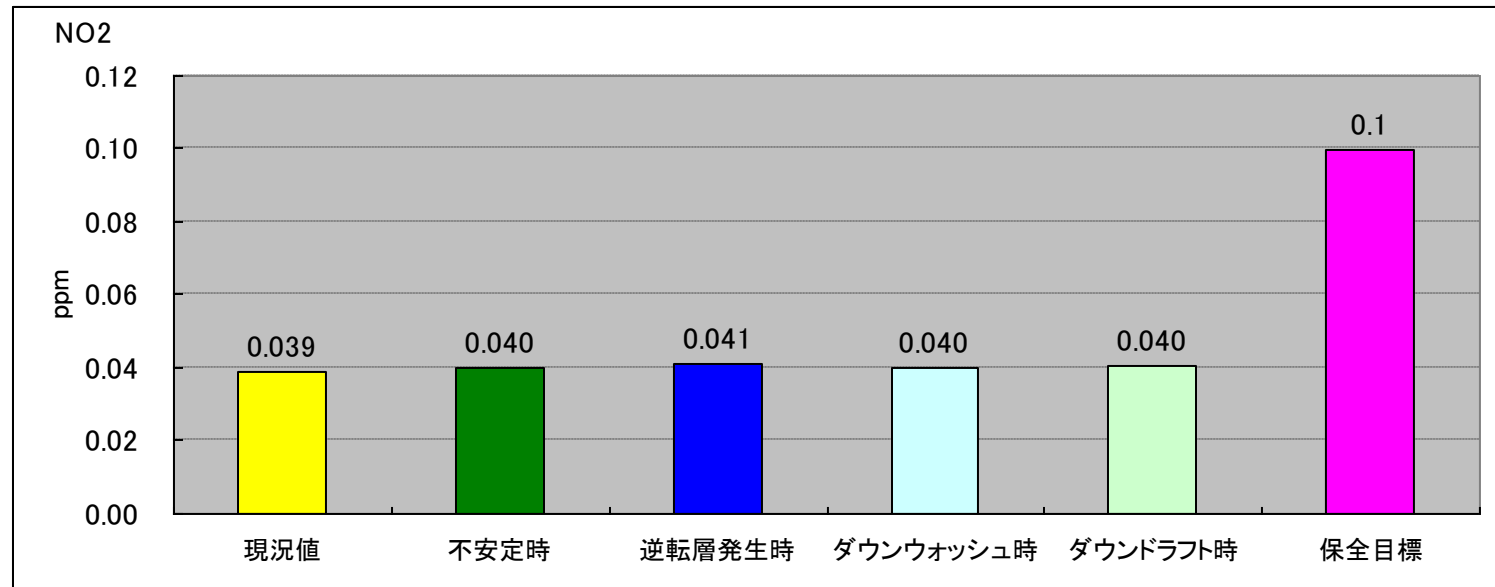


【環境保全目標】

■二酸化硫黄：1時間値が0.1 ppm以下であること。

予測・評価の結果(大気質⑦)

施設の稼働(二酸化窒素)

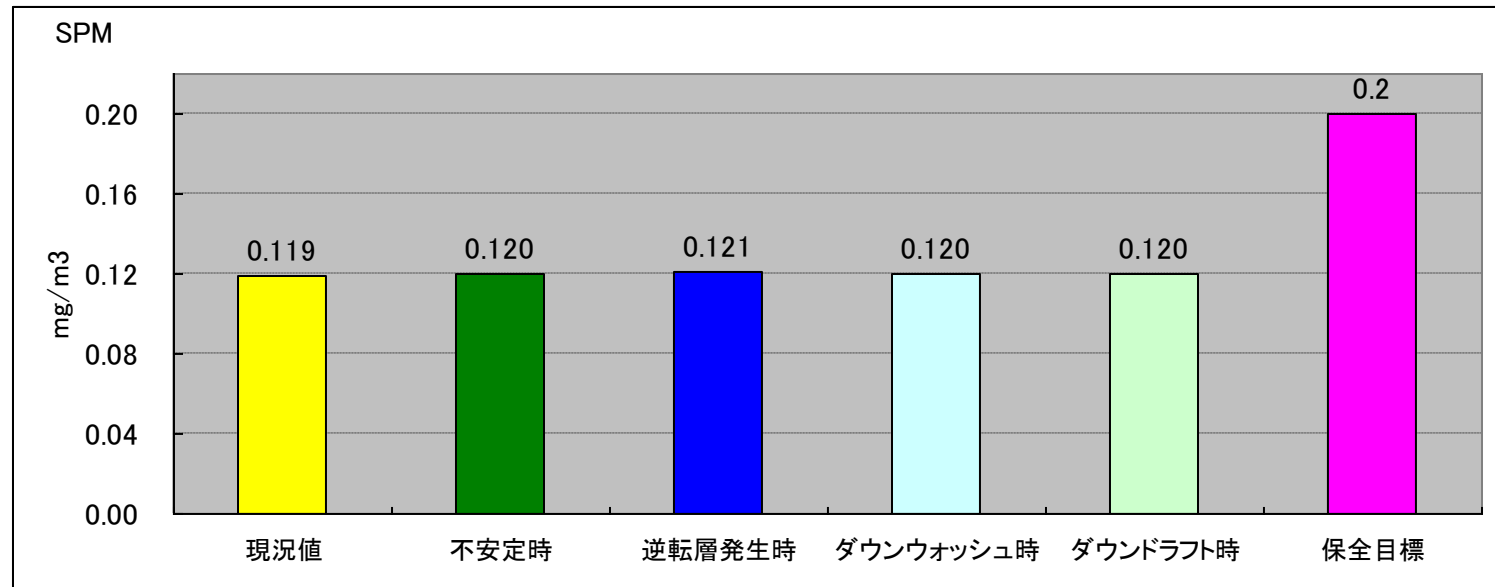


【環境保全目標】

■二酸化窒素：1時間値が0.1ppm以下であること。

予測・評価の結果(大気質⑧)

施設の稼働(浮遊粒子状物質)

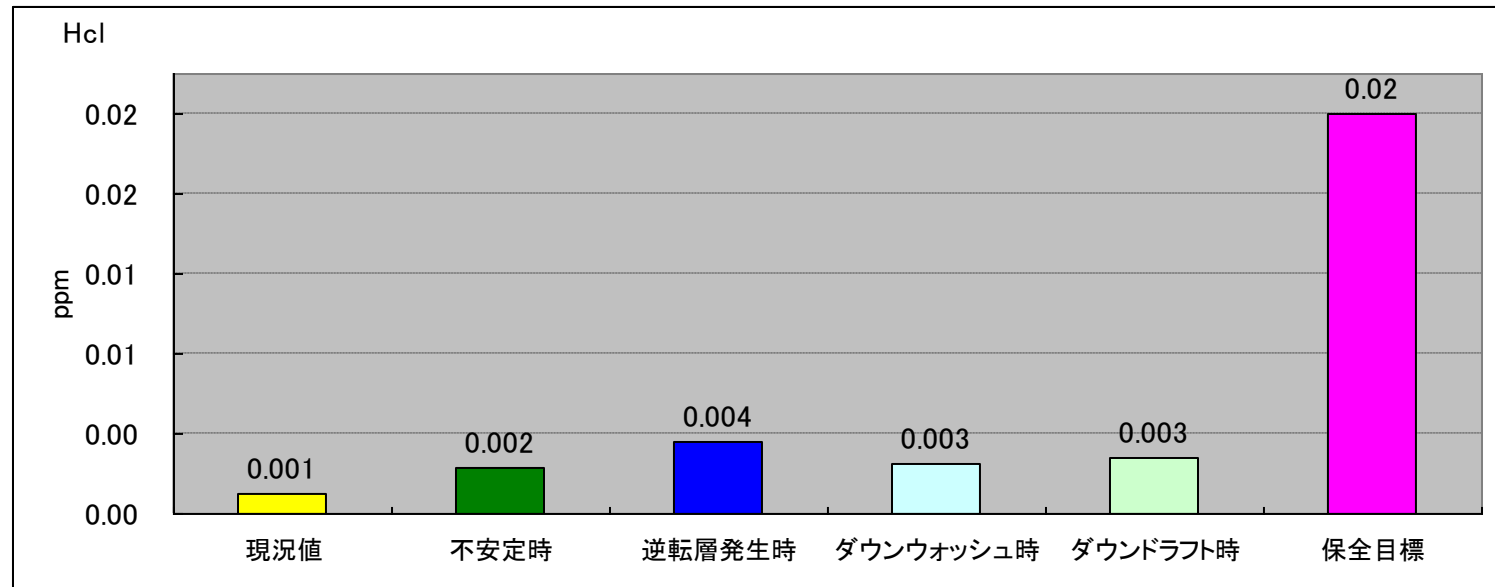


【環境保全目標】

■浮遊粒子状物質：1時間値が0.20mg/m³以下であること。

予測・評価の結果(大気質⑨)

施設の稼働(塩化水素)



【環境保全目標】

■塩化水素：1時間値が0.02ppm以下であること。

予測・評価の結果(大気質⑩)



◆廃棄物運搬車両の走行
(予測地点)

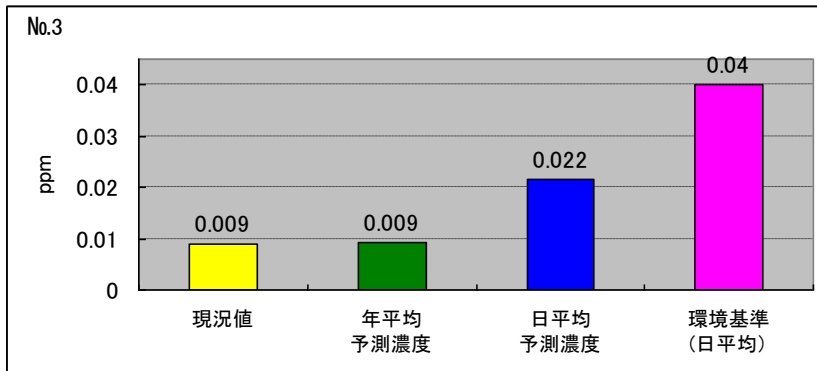
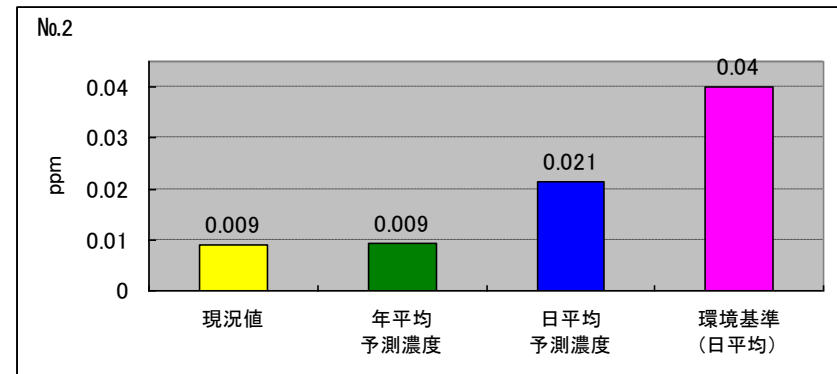
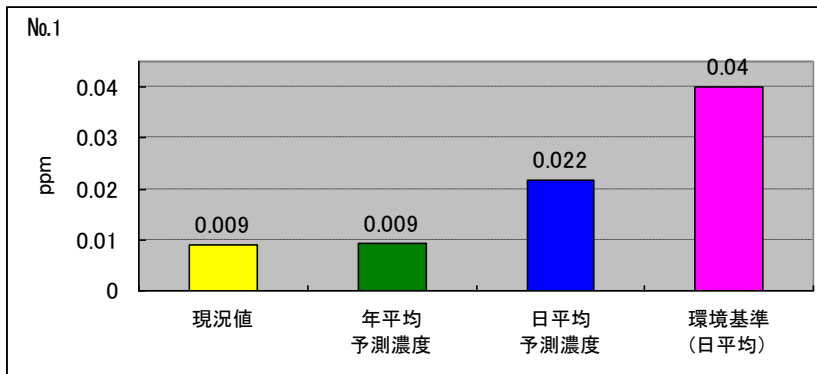
廃棄物運搬車両の運行ルート
沿い3地点

◆廃棄物運搬車両の走行台数

現況と同程度と考え、平成23年
度実績から150台/日に設定。

予測・評価の結果(大気質⑪)

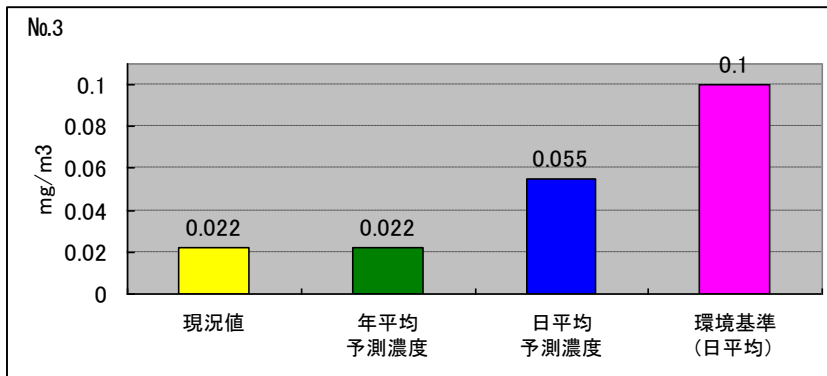
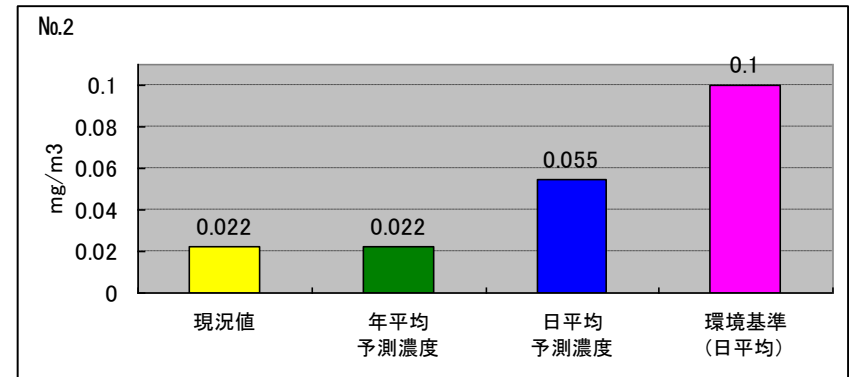
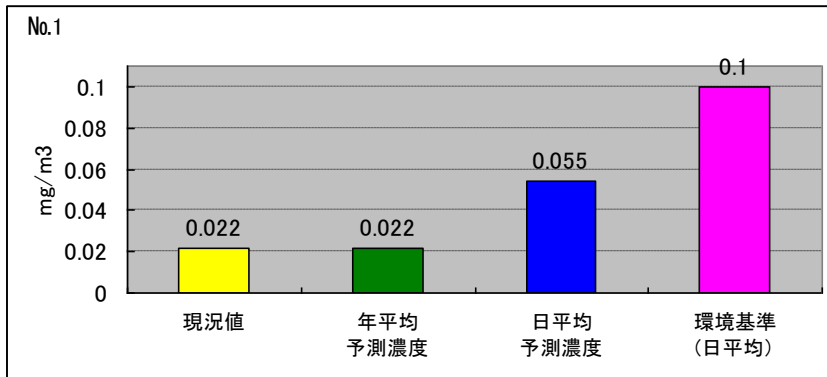
廃棄物運搬車両の走行稼働(長期平均濃度予測)



予測項目：二酸化窒素

予測・評価の結果(大気質⑫)

廃棄物運搬車両の走行稼働(長期平均濃度予測)

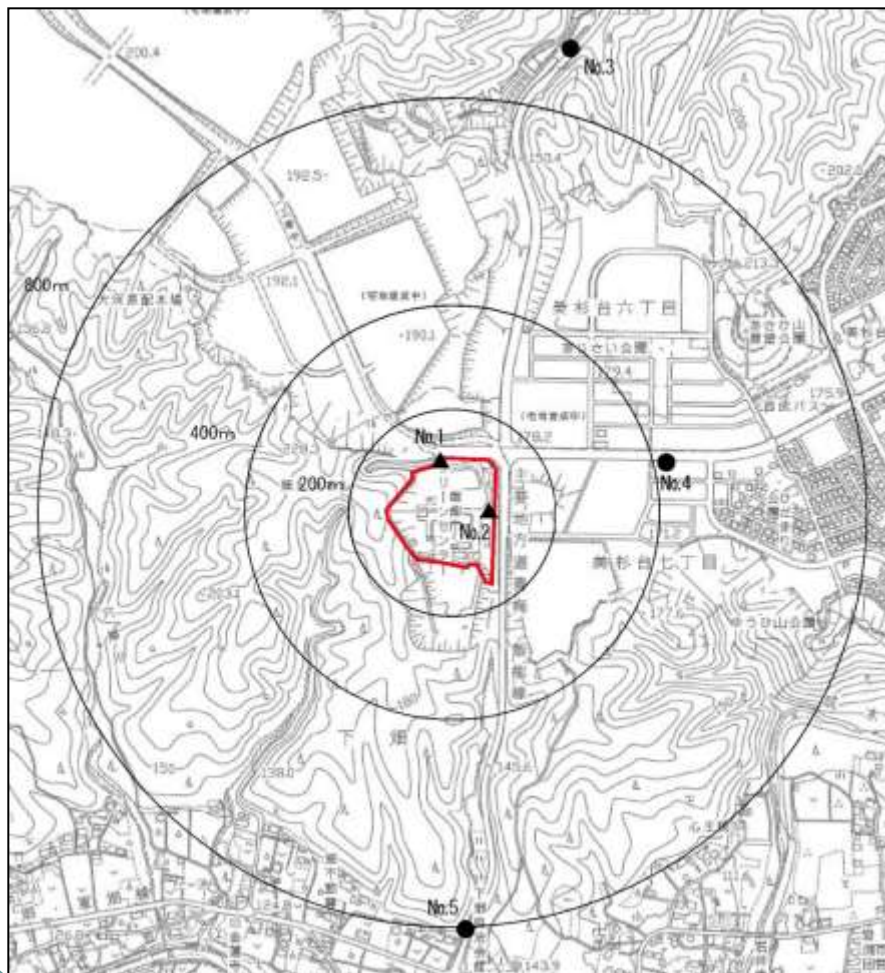


予測項目：浮遊粒子状物質

調查項目

騒音・振動

調査地点等



調査項目

■ 環境騒音・振動

敷地境界： No.1、 No.2

■ 道路交通騒音・振動・交通量

青梅飯能線： No.3、 No.5

飯能南台大河原線： No.4

調査期間

■ 環境騒音・振動：

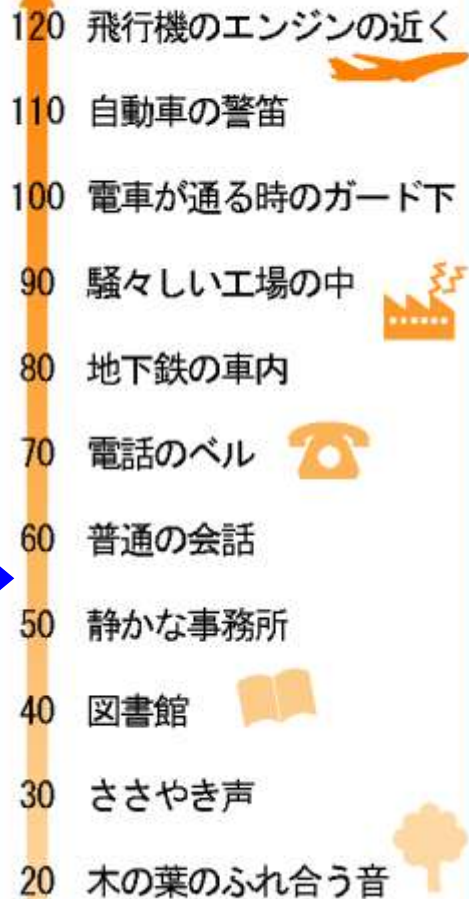
H23年12月14日7時～15日7時
(24h)

■ 道路交通騒音・振動・交通量：

H23年12月14日7時～19時(12h)

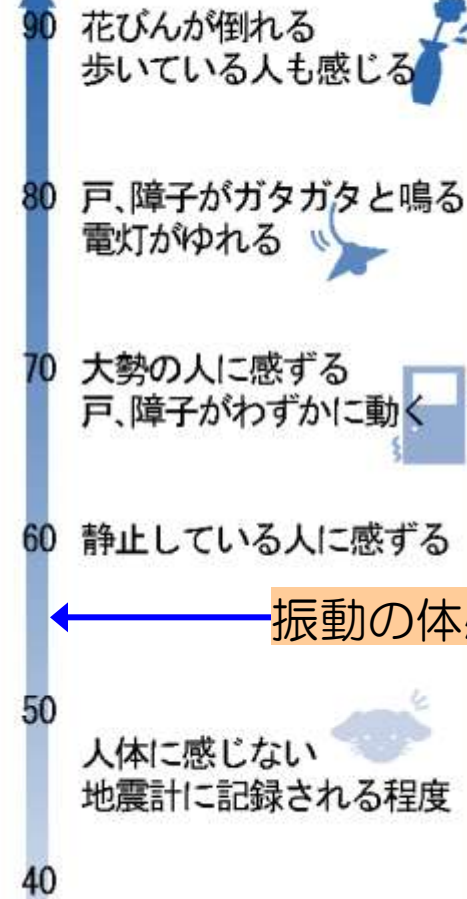
騒音・振動のめやす

騒音のめやす (デシベル)



昼間の環境基準
(55dB)

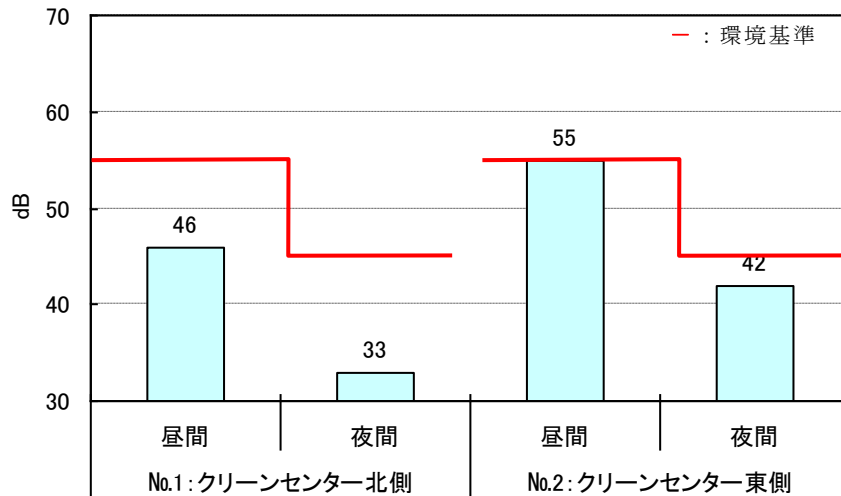
振動のめやす (デシベル)



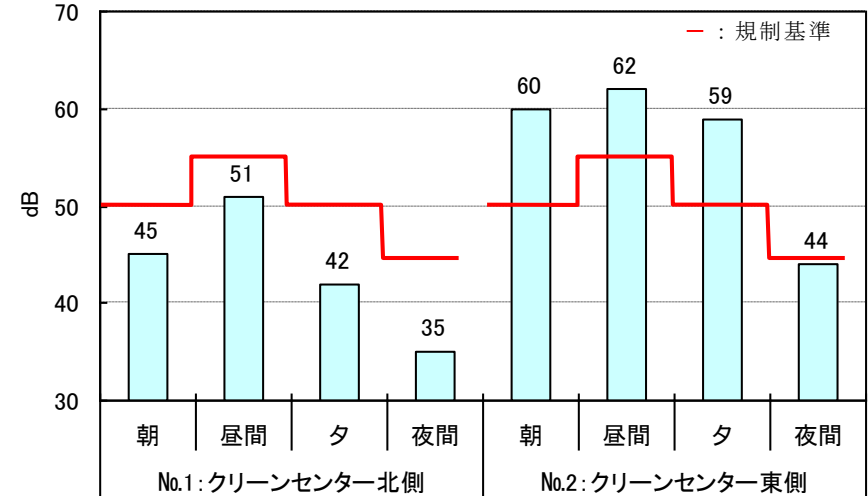
振動の体感閾値 (55dB)

調査の結果（騒音・振動①）

環境騒音の調査結果



環境基準（等価騒音レベル）
との比較

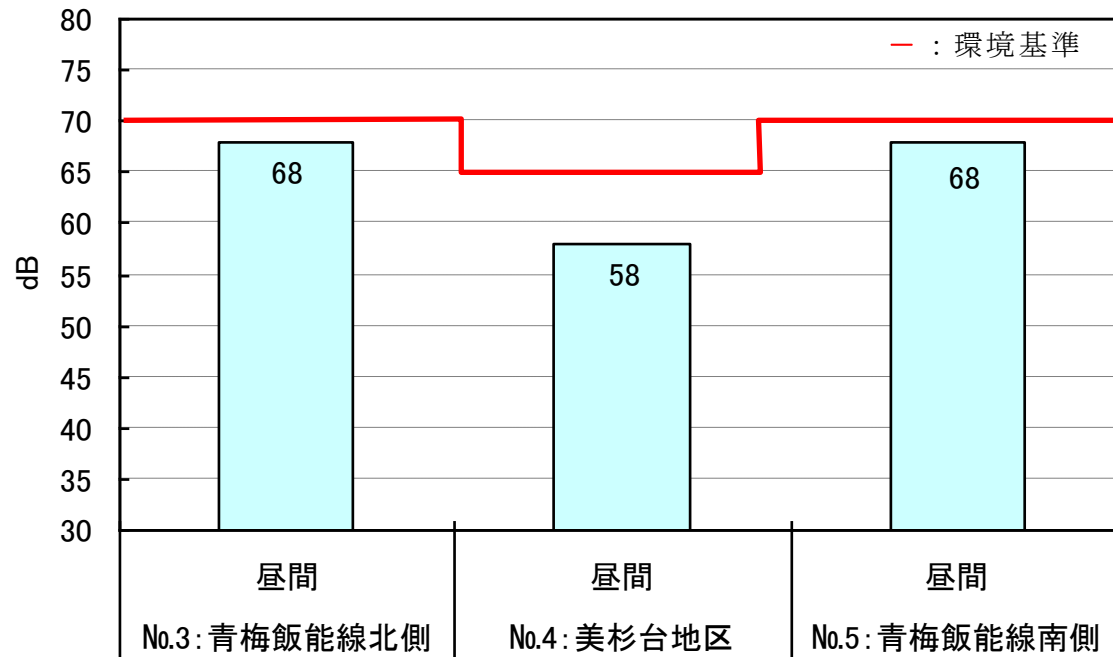


騒音規制法（上端値：L₅）
との比較

No.2（クリーンセンター東側）では、クリーンセンター東側の主要地方道青梅飯能線を走行する車両の影響を強く受けています。

調査の結果（騒音・振動②）

道路交通騒音の調査結果

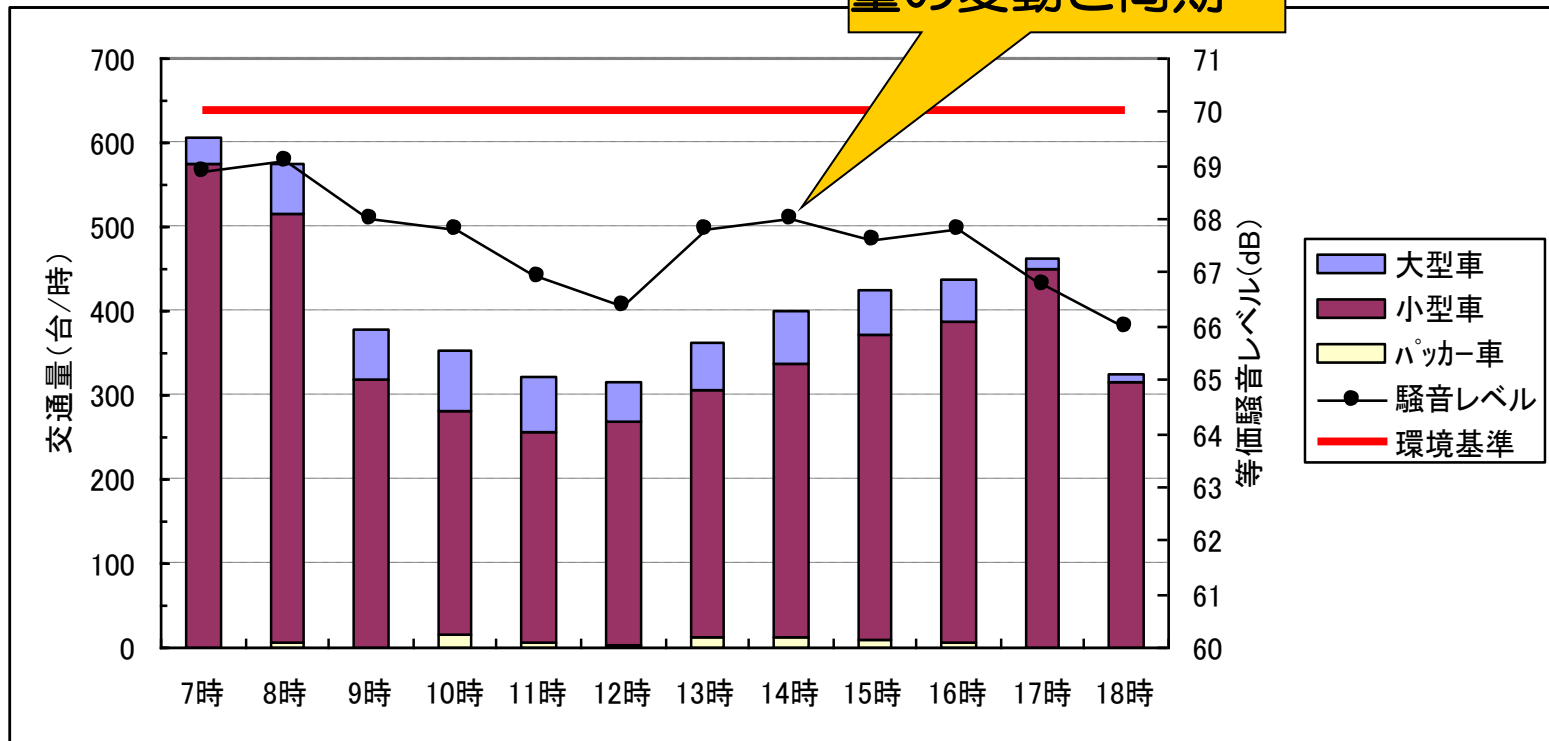


注) 青梅飯能線と飯能南台大河原線の環境基準値は異なります。

調査の結果（騒音・振動③）

道路交通騒音の時間変動

騒音レベルは交通量の変動と同期

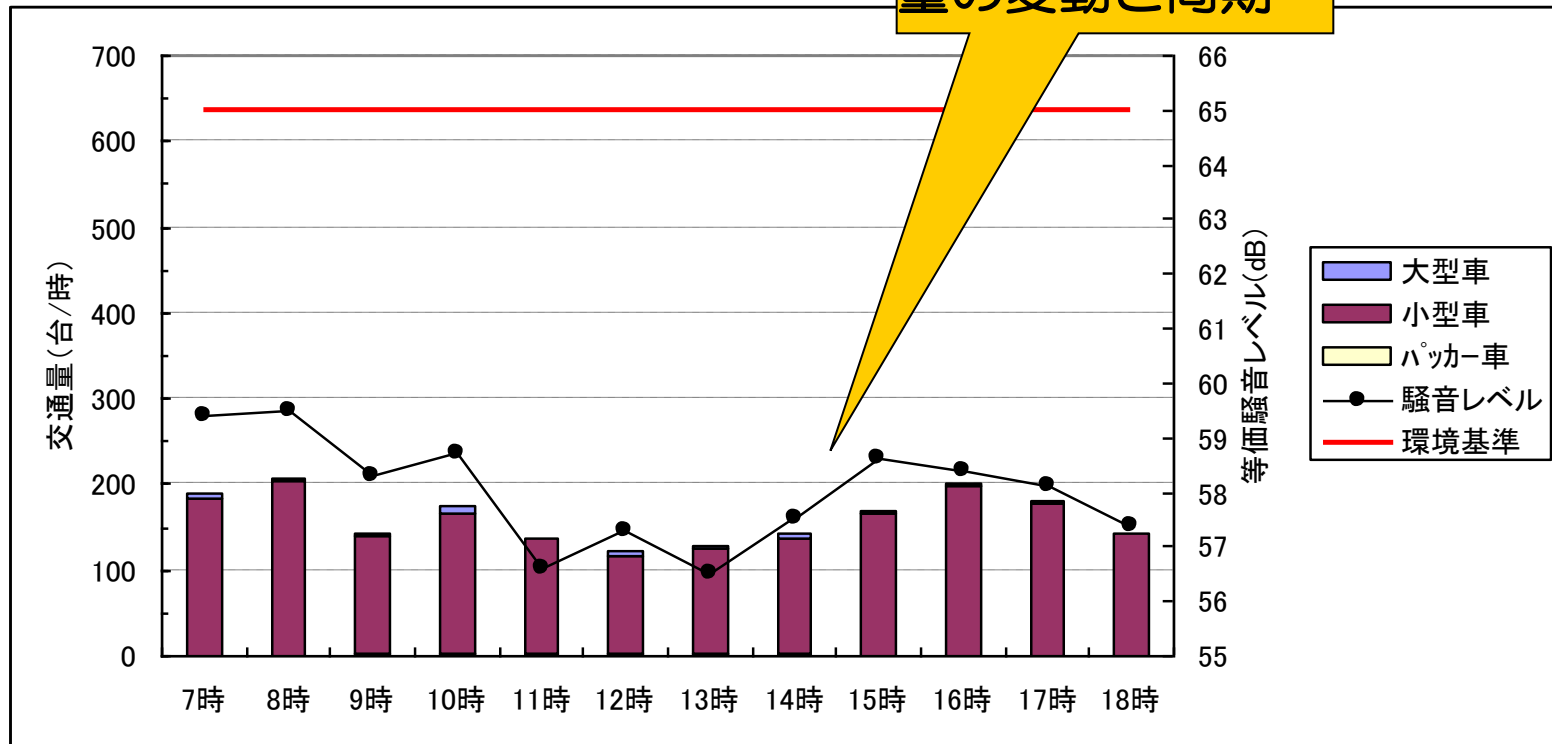


調査地点：No.3（青梅飯能線）

調査の結果（騒音・振動④）

道路交通騒音の時間変動

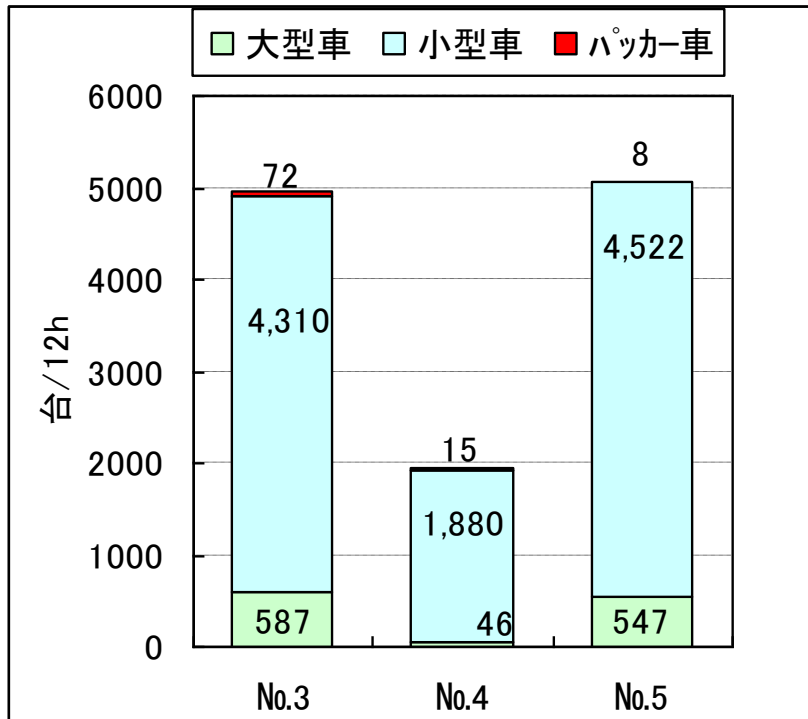
騒音レベルは交通量の変動と同期



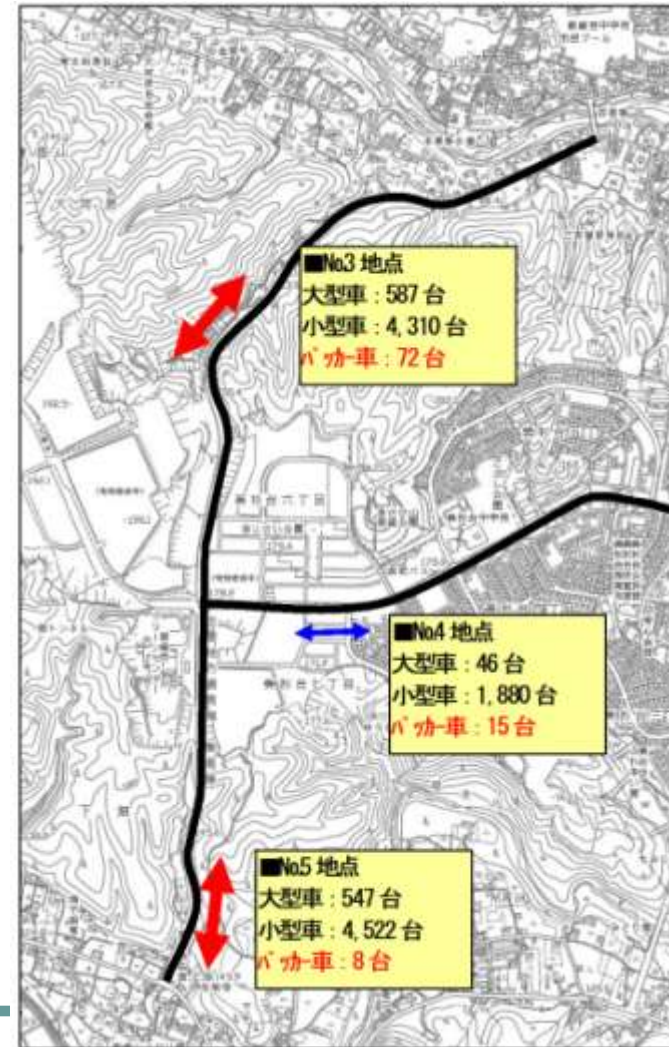
調査地点：No.4（飯能南台大河原線）

調査の結果（騒音・振動⑤）

交通量



■ 青梅飯能線の交通量は、飯能南台大河原線の約2倍以上



調査及び予測結果（騒音・振動⑥）

環境、道路交通振動の調査結果

調査地点	調査結果	規制基準
No.1	25dB以下	60/55dB
No.2	25dB以下	60/55dB
No.3	25dB以下	65dB
No.4	25dB以下	65dB
No.5	29dB	65dB

■全ての地点で、振動の体感閾値（55dB）以下

調査の結果（騒音・振動調査のまとめ）

- ◆騒音レベルは各地点とも環境基準値を下回っていた。
- ◆振動レベルは各地点とも規制基準を下回っていた。
- ◆クリーンセンター東側では、青梅飯能線を走行する車両の影響を強く受けている。
- ◆青梅飯能線の交通量は、飯能南台大河原線の約2倍以上である。

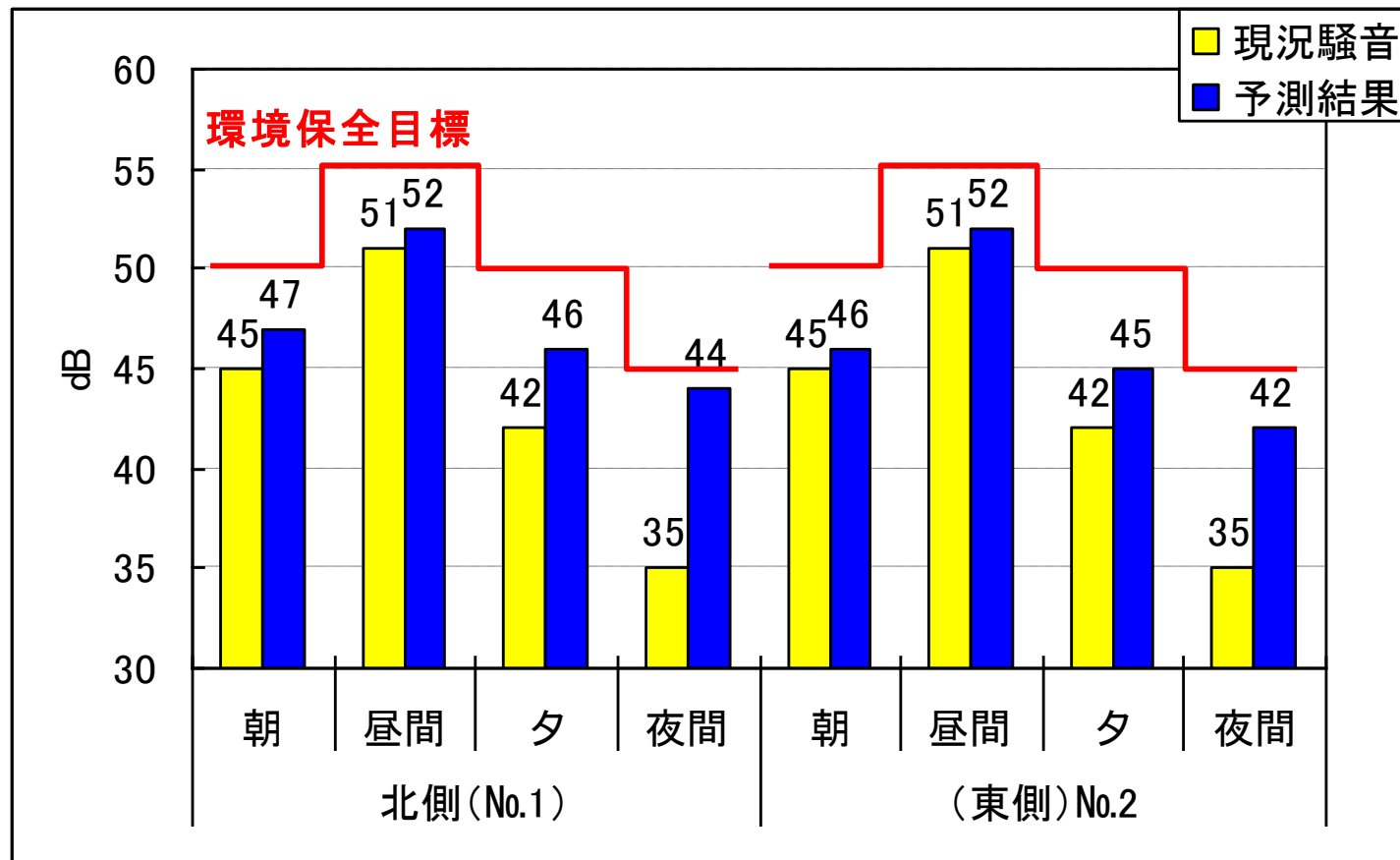
予測・評価の結果(騒音①)

施設の稼働(周辺への影響: 昼間)



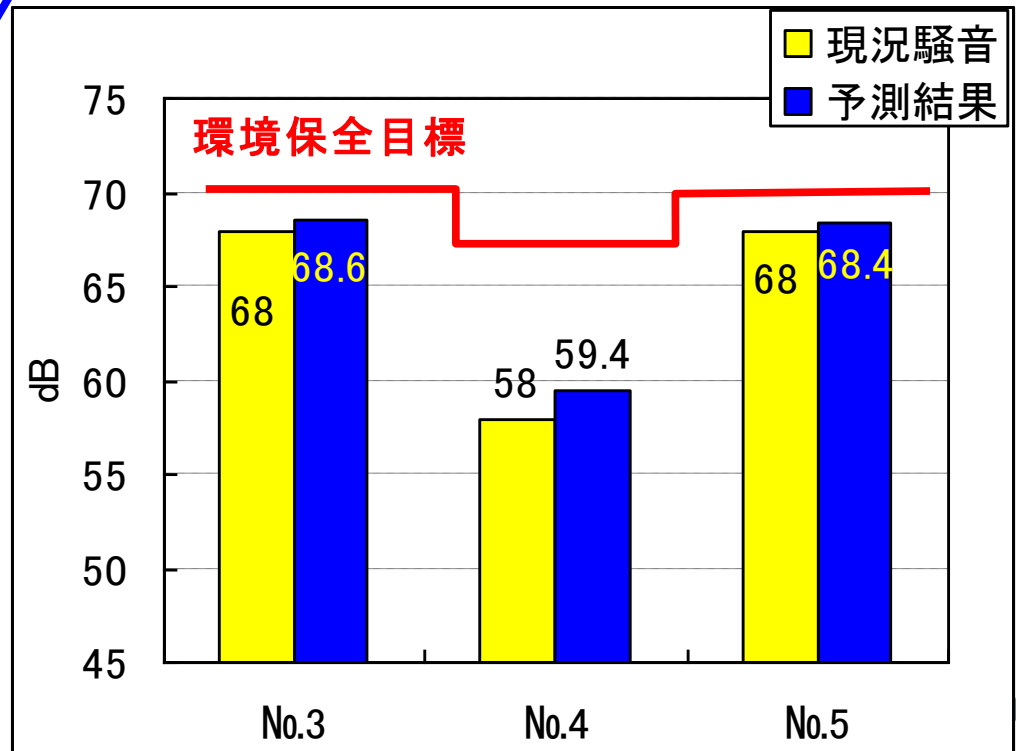
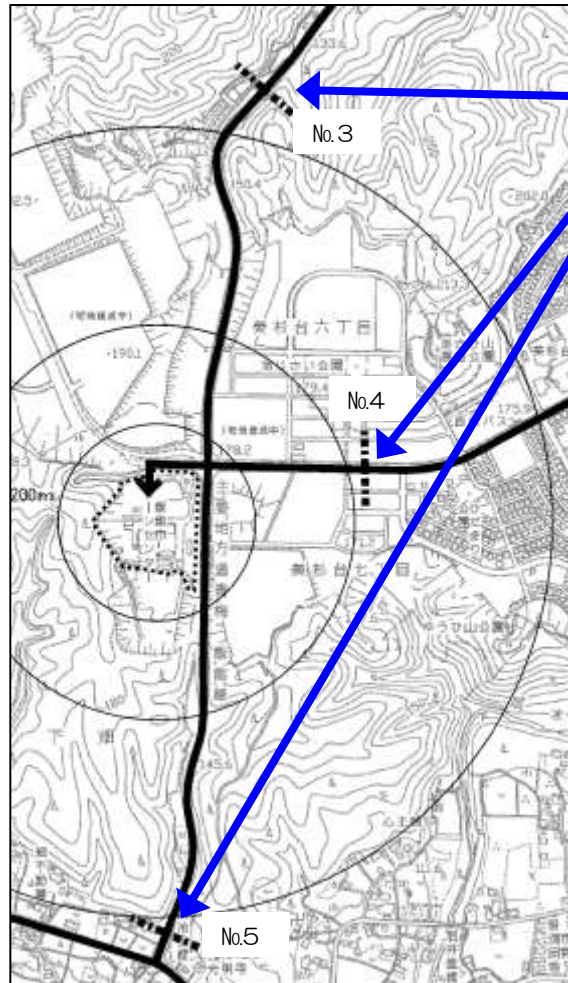
予測・評価の結果(騒音②)

施設の稼働(環境保全目標との比較)



予測・評価の結果(騒音③)

廃棄物運搬車両の運行

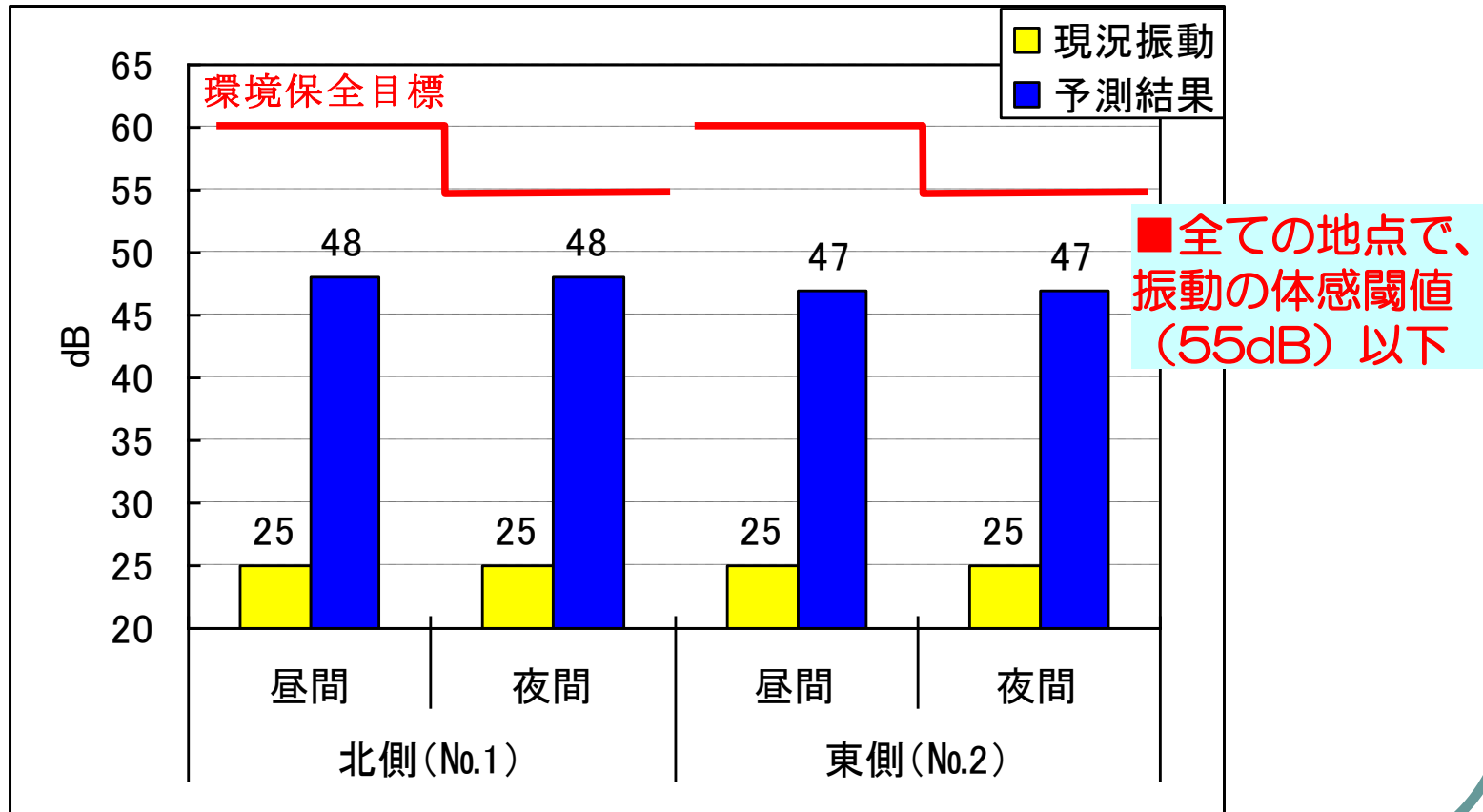


予測・評価の結果(振動①)



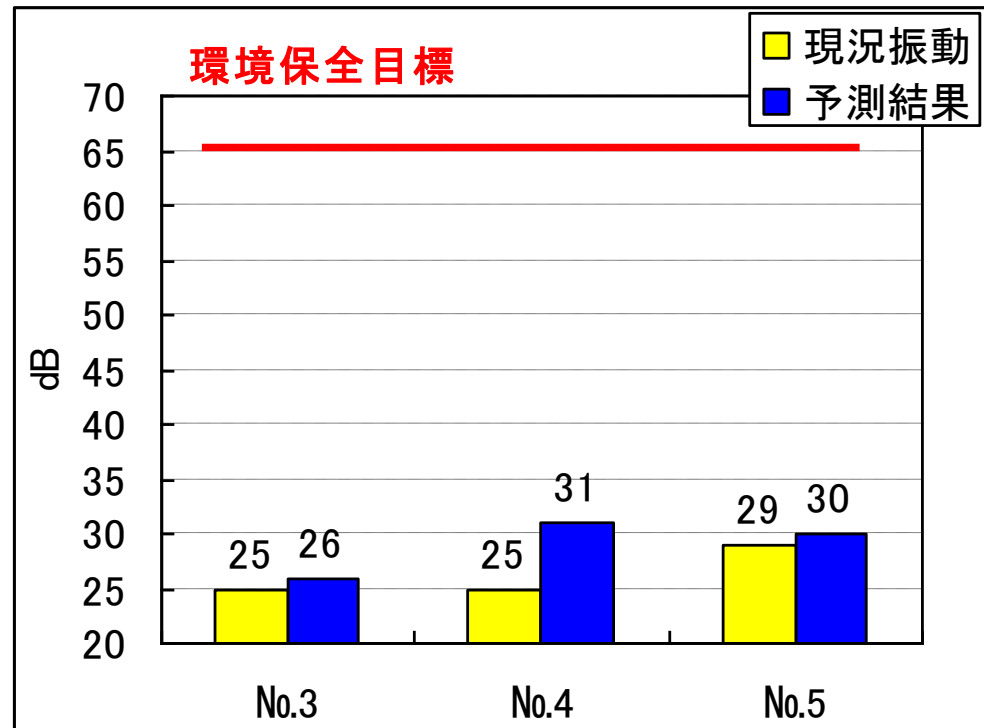
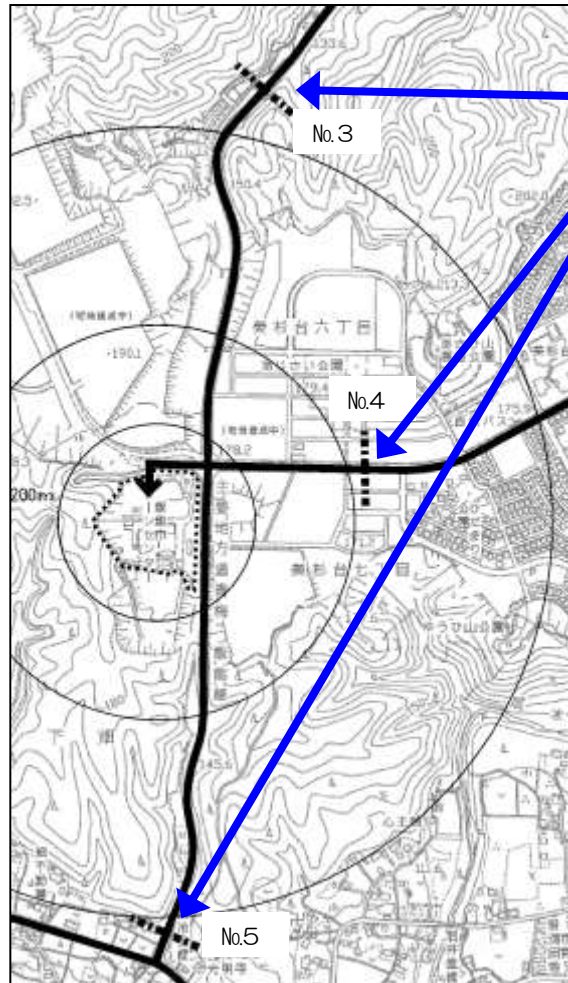
予測・評価の結果（振動②）

施設の稼働（環境保全目標との比較）



予測・評価の結果(振動③)

廃棄物運搬車両の運行



調查項目

惡臭

調査地点



調査項目

- 特定悪臭物質
- 臭気指数

調査期間

- 1号炉煙道：
平成23年8月18日
- 2号炉煙道、敷地境界
(2箇所)、プラットフォーム：
平成23年9月7日

調査の結果(悪臭)

- 臭気指数及び特定悪臭物質は、全て規制基準値以下でした。

測定場所		臭気指数 測定結果	規制基準 規制地域 (A 区域)	気象条件					
				天候	気温 (℃)	湿度 (%)	風向	風速 (m/s)	風力 階級
No.1	1号炉	31 (1300)	55	—	—	—	—	—	—
No.2	2号炉	29 (790)	54	—	—	—	—	—	—
No.3	敷地境界(北側)	10未満 (10未満)	15	晴れ	28.8	55	南東	1	1
No.4	敷地境界(東側)	10未満 (10未満)	15	晴れ	28.0	54	東南東	1	1
No.5	プラットホーム	14 (25)	15 ^{*1}	—	24.2	64	—	—	—

備考1) ※1: プラットホームでの規制基準「15」は参考値。

備考2) 臭気指数測定結果欄の()は臭気濃度

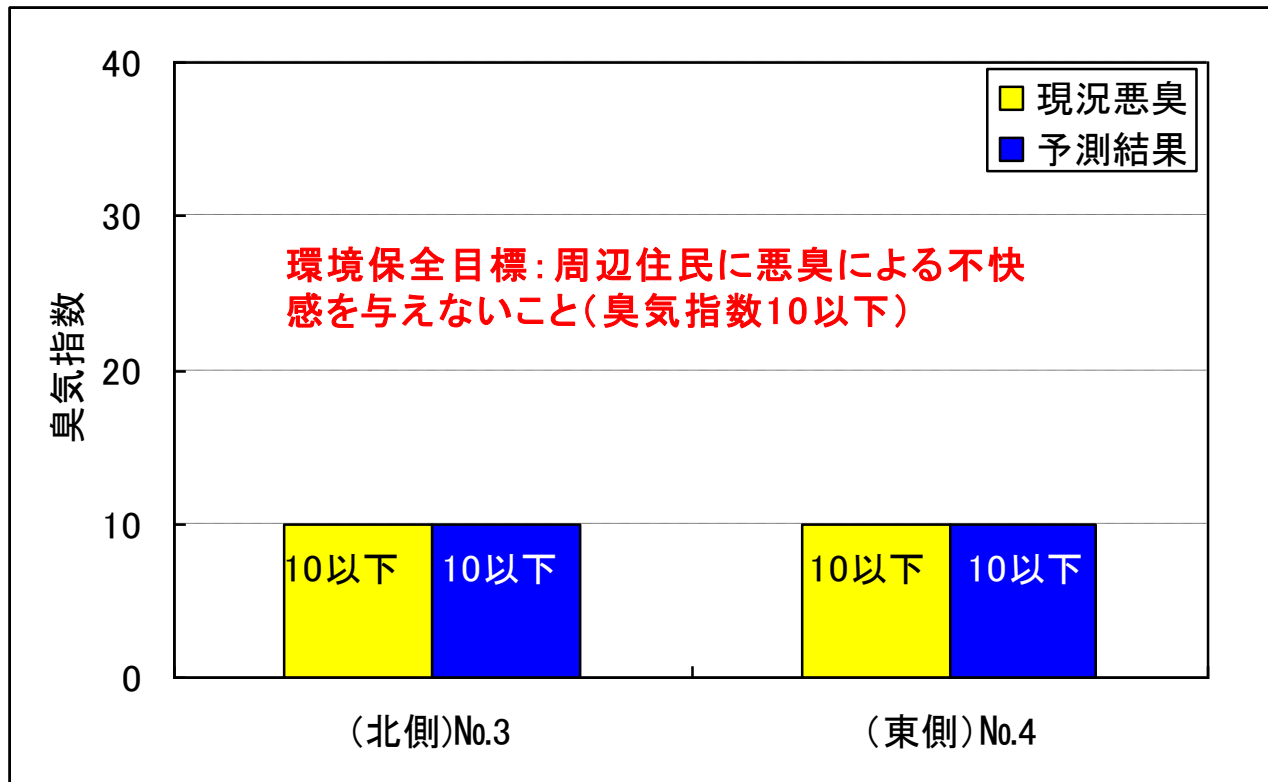
臭気指数	10~15	12~18	14~21
判定のめやす	弱いにおい	楽に感知できるにおい	強いにおい

予測の結果（悪臭①）

施設の稼働（煙突排出ガス）及び施設からの漏洩

予測項目	予測結果
施設の稼働	ピット内から吸引した臭気については、 炉内のごみの燃烧とともに酸化分解 (悪臭物質は800℃以上で酸化分解)するため、 無臭化 されます。
施設からの漏洩 (新施設)	新施設の悪臭防止対策では、プラットホーム出入口はエアカーテン、自動扉を設けるなど、 既存施設よりも悪臭が漏洩しにくい設備 となっており、施設からの悪臭の影響は小さいと予測します。
施設からの漏洩 (新リサイクル施設)	リサイクル施設において処理する廃棄物(粗大ごみ、不燃ごみ等)は、 基本的に悪臭の発生の小さい無機性の廃棄物 であり、悪臭防止対策を実施することで悪臭の影響は小さいと予測します。

予測の結果(悪臭②)



環境保全措置

環境保全措置

環境保全対策の内容(工事中)

環境保全対策の内容

工事用仮囲いを設け、粉じん等の飛散を防止する。

強風、地表面が乾くなどの粉じん等が舞い上がりやすい条件が見られた場合は、**散水等を行い、粉じん等の飛散を防止**する。

退出する**工事車両を適宜洗車することにより、周辺道路の汚れを防止**する。

造成面の場内道路は養生マット敷設等とし、工事車両及び建設機械の走行に伴う粉じん等の飛散を防止する。

工事に伴う掘削残土を仮置きする場合は、散水等の保全対策を行い、粉じん等の飛散を防止する。

建設機械の使用にあたっては、点検・整備を十分に行う。

工事の規模に合わせた建設機械等の適性配置と効率的な使用を行う。

建設機械の運転は丁寧に行い、空ぶかし等を行わない。

原則として低騒音・低振動型建設機械を使用する。

原則として日曜日・祝日・夜間の工事は行わない。

可能な範囲内で低騒音・低振動型工法を採用する。

環境保全対策の内容(工事中)

環境保全対策の内容

工事用仮囲いを設置し、騒音の伝播を防止する。

工事車両の走行にあたっては、法定速度を遵守する。

工事車両の走行にあたっては、空ぶかしをしない丁寧な運転を心がける。

特定の日時に工事車両が集中しないよう配慮する。

工事車両の搬入時間の分散化に努める。

周辺道路において路上駐停車が行われないよう管理を行う。

計画施設の設計・建設にあたっては、最終的な解体による廃棄物の発生を最小限に抑制するため、再生利用が容易な材料を用いる等の工夫を行う。

工事中に排出される廃棄物の**再資源化又は有価物としての利用に努め、廃棄物の発生量を抑制**する。

工事中に排出される廃棄物は適正な保管・処理を行う。

他事業との連携による残土の有効利用を図る。

環境保全対策の内容（供用時）

区分	項目	内容
大気汚染	自主管理基準の設定	・新施設からの煙突排出ガスは、 関係法令により定められた規制値及び公害防止基準値を遵守するものとする。
	排出源モニタリングの実施	・煙突排出ガス中の大気汚染物質（ばいじん、塩化水素、硫黄酸化物、窒素酸化物、一酸化炭素）は、 常時観測を行い施設が異常な運転状態となることを回避する。
	運搬車両の排ガス対策	・廃棄物運搬車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する。 ・ 廃棄物運搬車両が集中しないよう搬入時期・時間の分散化に努める。 ・廃棄物運搬車両は、排出ガス対策型車両を使用する。
	粉じん対策	・適切な集じん装置の設置を行い、粉じんの基準値を遵守する。
騒音	施設稼働騒音	・ 各設備・装置とも原則として室内に収納し、施設外への騒音の伝播を防止する。 ・低騒音型の設備機器を採用し騒音の低下を図る。
	廃棄物運搬車両騒音	・廃棄物運搬車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する。 ・ 廃棄物運搬車両が集中しないよう搬入時期・時間の分散化に努める。

環境保全対策の内容（供用時）

区分	項目	内容
振動	施設稼働振動	<ul style="list-style-type: none"> • 主要な振動発生源には防振ゴム等による支持を行い、発生する振動を吸収する。
	廃棄物運搬車両振動	<ul style="list-style-type: none"> • 廃棄物運搬車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する。 • 廃棄物運搬車両が集中しないよう搬入時期・時間の分散化に努める。
悪臭	悪臭防止対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> • プラットホーム出入口は、エアカーテン、自動扉等を設け、プラットホーム内の臭気の漏洩を防止する。 • ごみピット内の臭気等の漏洩を防止するため、ごみピット内の空気を吸引し燃焼用空気として使用する（燃焼用空気として使用することで臭気を高熱で分解）。 • 点検等により、2炉停止時は活性炭吸着により悪臭の発生を防止する。
水質汚濁	生活系排水の下水道への放流等	<ul style="list-style-type: none"> • 施設から排水される工場系（プラント）排水は、本施設で再利用を行い、河川放流は行わない。生活系排水は、そのまま下水道に放流するものとし、公共用水域への放流は行わない。

お知らせ

4. お知らせ

お知らせ

生活環境影響調査書の縦覧

項目	内容
縦覧期間	平成24年5月15日（火）～平成24年6月14日（木）
縦覧時間	午前8時30分～午後5時15分（土曜日、日曜日を除く）
縦覧場所	廃棄物対策課（クリーンセンター内） 環境緑水課（本庁舎別館2階）

意見書の提出

項目	内容
提出期間	平成24年5月15日（火）～平成24年6月28日（木）
提出先	廃棄物対策課（クリーンセンター内）
提出方法	持参または郵送（消印有効）
記載事項	氏名、住所（法人その他の団体にあつてはその名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地） 生活環境影響調査書について環境保全の見地からの意見及びその理由